大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース　第 46 巻 第 1 号
発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7
電話　072-682-6166
FAX　072-682-6636
発行者　河野 公一
発行部数　6,100 部
URL
http://www.jinsenkai.net



目 次

P3	新年のご挨拶	大阪医科大学 仁泉会理事長　河野公一
P4	新年のごあいさつ－ 飛躍への槌音 －	大阪医科大学理事長　植木 實
P5	年頭のご挨拶	大阪医科大学学長　竹中 洋
P6	三保の松原より 新春のご挨拶	静岡県支部支部長　吹田浩之
	新年のご挨拶	岐阜県支部長　小嶋昭次郎
P7	年頭所感	大阪府支部連合会会長　佐藤公彦
	大阪医科大学の研究医枠入試に期待する	西区支部長　浅野彰彦
P8	How Doctors Think	北区大淀支部長　山田勝彦
	謹賀新年	城東区支部長　福田吉彦
P9	新年のご挨拶	鶴見区支部長　宮浦康児
	臨死体験	生野区支部長　村田高穂
P10	新年のご挨拶	西成区支部長　佐々木伸一
	力を合わせて	阿倍野区支部長　福本敏子
	初夢にて	東住吉平野区支部長　園谷 昇
P11	新年のごあいさつ～つれづれなるままに～	豊中市支部長　渡邊一三
P12	謹賀新年	摂津市支部長　黒本成人
	ゴールドマンベルクの夢	東大阪市支部長　大西洋一郎
P13	新年のご挨拶	貝塚市支部長　川﨑康寛
	新年のご挨拶	泉佐野泉南支部長　武井公雄
P14	私の近況報告（新年の挨拶を兼ねまして）	富田林医師会会長　堀野俊男
	ヒポクラテスの木	兵庫県支部連合会会長　日下孝明
P15	新春に思う	神戸支部長　安藤嗣彦
	H27 年こんな初夢を見ました～川西支部総会記～	川西支部長　土肥恒夫
P16	謹賀新年	和歌山県支部長　古田浩太郎
	謹賀新年	広島県支部長　小野誠治
	島根の生活はいかがですか？	島根県支部長　中島 徹
P17	新年のご挨拶	香川県支部長　石田達也
	「卒後 50 周年を迎えて」（我が生涯）	第 14 期評議員　福永晶
P18	卒後 30 年に思う	第 34 期評議員　上杉康夫
P19	新任教授座談会　専門教授に訊くその①	出席者／河野公一 仁泉会理事長（学 21 期） 御前 治 広報担当理事（学 33 期） 寺崎文生 教育センター 専門教授 林 道廣 同専門教授、中野隆史 同専門教授
P23	TOPICS「2014 年度医師臨床研修マッチングで本学が 6 位にランクイン！」	安藤嗣彦（学 20 期）
	受賞報告	谷本芳美先生（学 50 期）
P24	学会報告「第33回 Microwave Surgery 研究会」	一般消化器外科教授 内山和久（学 32 期）
P25	クラス会だより「辰交会の報告」	藤本正三（学 2 期）
	「第 5 回大阪医科大学卒業生同好会ゴルフ」	田中 陽（学 11 期）
P26	「47 同窓会 2014」	古林光一（学 21 期）
	「平成 26 年度仁泉会和歌山県支部総会の報告」	湯川裕史（学 29 期）
P28	リレーエッセイ「睡眠医療と私」	川田誠一（学 34 期）
	どうでもエエ話「そばの細道」	西村 保（学 4 期）
P29	著書紹介	
P30	新聞・冊子切り抜き	

謹賀新年

新年のごあいさつ 2015

新年のご挨拶

大阪医科大学仁泉会理事長
河野公一（学 21 期）

新年あけましておめでとうございます。

会員諸先生には、ご家族の皆様共々ご健勝にて穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より仁泉会の活動につきまして、種々ご助力ご助言を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年、仁泉会は一般社団法人大阪医科大学仁泉会として新定款の下、新たな歩みを始めましたが、今年は公益目的である、学術振興および研究助成事業、良医育成のための医学部学生に対する奨学金貸与事業、また一般事業である、会員諸先生の福利厚生への支援や母校の発展向上に寄与する各種事業など、これまでにも増して推進してまいります。

本部理事会にて、内田實（学 12 期）、安藤嗣彦（学 20 期）両副理事長を中心として新役員の会務分掌を明確にし、その後総会でお認めいただきました事業計画を円滑に進めるべく組織強化に努めてまいりました。

そのような中、各地区の仁泉会諸先生のより活発な交流と、今後の活動に関するご意見をお聞かせ願うことを目的として、昨年 3 月 8 日に関東地区合同の仁泉会総会を開催させていただくことが出来ましたのも、一重に会員諸先生のご支援ご助力の賜物と感謝いたしております。

また今年 3 月 2 日（土曜日）には、同様の趣旨で四国地区仁泉会総会を高松で、3 月 29 日（日曜日）には岐阜、愛知、三重県を中心に名古屋で仁泉会総会（新三水会）を計画していただいております。

今後は同様に数県にまたがる地区総会を開催していただき、各支部の更なる活性化、会員相互の親睦と情報共有をお願いして参る所存です。各期クラス会や支部会開催の節には本部事務局にまでご一報いただければ幸いです。

さらに本学が国際交流協定（中山国際医学医療交流センター事業）を結んでおります海外の医科大学のうち、まず第一歩として台湾の台北医学大学（医学部、歯学部、薬学部などを持つ台湾屈指の私立医科大学）同窓会と昨年 8 月 23 日に、同大学学長、同窓会長をお招きして、親睦を深める目的の交流協定を締結させていただきました。

現在本部理事会では安藤副理事長を委員長に、医学部学生の仁泉会への入会（準会員として？）や役員の任期制の検討など山積します課題に対応すべく、定款の改定を含めて検討していただいております。次回の総会などの場でご報告してまいります。

今年も引き続き会員各位のご支援、ご助力をお願い申し上げますとともに、会員並びにご家族の皆様が今年一年ご健勝でご活躍されることを心より祈念申し上げます。

新年のごあいさつ
－ 飛躍への槌音 －

学校法人 大阪医科大学理事長
植木 實（学 12 期）

明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

扨、ここ数年の日本の政界・経済の動向は激しさを増しており、学校法人大阪医科大学としても長期安定運営と発展を図る上で目が離せない状況です。過去、長期にわたり重くのしかかっていた本邦のデフレ経済からの脱却を意図し、一昨年、日銀･政府が放ったアベノミクスは、効果的に作用して円安と株価上昇をもたらし、昨年 3 月までは経済の回復は明らかに見られたと思います。しかし、戦後歴代の政権が取り続けた国債の発行による赤字国家予算で国の借金は膨大な額となっており、その経済対策として昨年 4 月に諸外国に遅れて消費税 8%の増税に踏み切り、その増税分は年金・医療・介護・少子化対策などの社会福祉に充てるとしました。その直後から生じた国内消費の落ち込みは予想外に続いており、一方で自動車などを中心に輸出企業が円安の影響を受けて好調であり、個人の中でも株価や債券価値の上昇などにより富裕感を持つ国民もありました。11 月に入りまして、消費の落ち込みの早期回復を狙い、経済上昇の刺激策として日銀総裁は第二次金融緩和策を取り、市場は反応して再び円安、株価も上昇しましたが、6 ～ 9 月期の GDP 速報値がマイナスと発表されると株価は一時的に下落しました。そこで、首相は 10%への消費税増税を 1 年 6 か月延期する発表し、同時に自民党引き締め強化と政界再編を視野に入れながら、アベノミクス政策の信任を問うべく衆議院解散・総選挙となりました。その選挙結果は、同政策を信任する positive な反応となって表れ、政府与党が 2/3 の議席を獲得しました。今後、安倍首相は世界の動向、特に米国と近隣 2 国の変化を察知しながら、厳しい政治、経済の舵取りを要求されることになりましょう。

皆様ご承知のように、学校法人大阪医科大学は「教育」、「研究」、「診療」を核とした運営を行いつつ、社会的責任を果たし、社会・地域に貢献するサステナビリティ（社会還元活動）を展開しています。また、学校法人経営の最重要課題である安定性･継続性、公共性･信頼性、自主性･人運営が重要な課題でありますが、2010 年以降、病院経営改善委員会、学校経営改善委員会の設置、最近では全業務定期検証法人部会、法人経営推進・企画本部会議、中学・高校運営会議等を設け、また長期経営・運営目標のヒエラルキー（仁泉会ニュース 第 45 巻第 1 号［平成 26 年 1 月 31 日発行］既載）を策定し、法人事業活動の活性化や業務内容の向上を図っています。加えて、年 2 回程度の全体集会の開催やＨＰにおける法人や他部署の活動状況等について教職員はもとよりステークホルダーに開示し、情報公開に努めています。一方、本学法人は、財務関係や役員及び多くの業務部署の健全性を検証するために、監事及び外部監査法人、学内の法人監査人による三様監査体制を確立し、強固な内部監査体制を敷いています。

皆様が巣立たれた大阪医科大学は、創立当時から高槻市に在って、当地域に根付き育ちながら、少しずつ発展してまいりました。学校法人としては、この度、骨太化を図るために看護学部並びに大学院看護学研究科を設置し、そして平成 26 年 4 月 1 日をもって学校法人高槻高等学校と法人合併しました。高槻中学校・高等学校は、男子一貫の進学校として多くの人材を輩出しておりますが、超少子化等の社会の大きな変革に早期に対応するため、校舎の改築・新築などの整備を行うと共に教学の強化と男女共学校への変身を進め、進学校としてより一段とレベルを高めたいと思っています。

本学法人は、創立 90 周年を迎えるに際し、大学病院の全建替えと高層化を図るため、仁泉会をはじめ多くのステークホルダーのご支援を得ながら、記念事業の嚆矢として中央手術棟【右ページ写真】の建築を進めており、平成 27 年 12 月に完工し、平成 28 年 3 月に開院予定です。また、本大学病院は国が推進する医療の病院完結型から地域完結型へ転換を進めており、その役割を果たす広域医療連携センターの充実と、訪問看護ステーションの設置（平成 27 年 1 月稼働）を決定しています。

このように、本学法人は医師・看護師など良質の医療人の養成と中等教育による将来性のある人材の育成などを中心とした地域の教育・研究並びに医療の中核、即ち Center of Community、COC としての責務を果たしてまいります。

仁泉会諸氏には、平素のご支援とご指導に対し厚く御礼申し上げますと共に、本年の益々のご健勝とご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶と致します。



中央手術棟の 1 階壁面部分建設中（平成 26 年 12 月 19 日現在）

年頭のご挨拶

大阪医科大学学長
竹中 洋（学 23 期）

仁泉会の皆様、お健やかに新年をお迎えのことお慶び申し上げます。2015 年が希望と豊かな創造力に満ち溢れることを願っています。年頭に当たって今年の夢を書き留めたいと思います。

先ずは、医学部・看護学部の卒業生の皆さんが国家試験に合格し、医療人として 4 月からスタートされることを願っています。医学部は 2 年続きの国試不振で、仁泉会でも大変ご心配をお掛けしました。この 1 年間学生諸君も、教員もまた外部講師も精一杯の努力をしました。中でも学務や教育センター職員には課外あるいは正規の授業枠の遣繰りで大きな負担をかけました。未だ、全てが解決された訳ではありませんが、成績不振の裏に基礎医学の修得不足や自学自習のはき違え、学習意欲の欠如など課題も見えてきています。学年評価を学則に従って厳正に行い、「全体（全国医学生間）での個人の医学・医療の修得度」を自覚させることが何よりも重要と考えています。

次に、大学全体としての「産官学連携の推進」です。この 4 年間平均して 1,5 億円規模で医療機器開発などの競争的外部資金が大学に導入されています。この資金をもとに大学は、製造に関わるメーカーと共同で新しい医療機器や医療材料の開発を実行し、大旨 3 年で製品となり市場に導入されます。今年は消化器外科朝隈プロジェクトの「単孔式腹腔鏡デバイス」が第 1 号として登場予定です。楽しみにお待ち下さい。

医学研究科も学位の申請・授与に関わる手続きを大幅に改革してきました。論文審査の透明化（主査副査制度の見直しと公開発表の導入）、合わせて年度末に研究計画に基づく成果発表会も行われます。南研究科委員長をはじめ教員の努力で、3 年後には 4 年終了時の学位取得 90％を達成したいと思います。

最後に、今春 4 月から発布されます学校教育法の改正に従い、本学でも多くの規程や細則が見直されています。この度の改正は国立大学の運営改善を目的としたものです。本学でも学長選考方法が病院長選挙制度を踏まえ変更されます。しかし、私学の学校経営の根幹は、学部や大学の夢を追い求め理想実現の為に、学長や病院長に立候補される有為の士がいることが前提です。是非、教職員の皆さんには学校経営に関心を持ち、精力を注いで頂くことを祈念しています。

末尾ながら本年も仁泉会と会員の皆様に幸多いことを願っております。

三保の松原より新春のご挨拶

静岡県支部支部長
吹田浩之（学 36 期）

新年、明けましておめでとうございます。
全国におられます大阪医科大学仁泉会会員の皆さまのご健勝とご発展を、徳川家康も老後を過ごした温暖の地、駿府よりお祈り申し上げます。

昨年の静岡市は初めてのフルマラソンである静岡マラソンがおこなわれたぐらいで、大きな出来事はありませんでした。昭和 51 年より「来る来る」といわれている東海大地震も気配ありません。富士山が世界文化遺産に登録されましたが、中心部には観光客が増えた様子もなく、皆さん通り過ぎていくだけです。唯一恩恵があったのは、清水区にある三保の松原であります。確かに、ここから見える富士山は本当に素晴らしい。しかし以前は寂れた観光地でありました。ところが、今や渋滞が出来るほどの静岡を代表するほどの観光地となりました。徳川家康が一富士二鷹三茄子と言ったのも、おそらくこの三保の地で、鷹狩をしながら折戸茄子を食べて、富士山を望んだのだと言われています。折戸茄子は水茄子のような形をした美味しい茄子で、幻の食材であります。

話は変わりますが、昨年の夏に 20 年ぶりぐらいで高槻市に行き、多津屋のダブルカレーを食べました。虎のパンツで活躍していたお母さんは、さすがにおられず娘さんと思われる方が店を切り盛りしていました。でも残念ながら虎のパンツは履いていませんでした。昔ながらの味が維持されていて、懐かしさの涙が出そうでした。その多津屋の前にはステラが、ちゃんとありましたが、ミカサが閉まっていたのはショックでした。よく行った喫茶店のメルカードは場所が移動していてびっくりしました。飾られている絵画が同じだったため、また学生時代を思い出しました。高槻シックにかかりながら、昨年に学生時代の友人である矢野君が教授になったことを思い出し、私も大学を離れないでがんばれば良かったかなと思ったりしました。私の息子が医学部を目指して浪人中です。とにかく、大阪医大は受験してくれと言うと、絶対受からないから嫌だと言います。妙なところで母校を誇らしく思いました。やはり大阪医科大学は素晴らしい大学だと痛感します。今年もよろしくお願い致します。

新年のご挨拶

岐阜県支部長
小嶋昭次郎（学 29 期）

新年明けましておめでとうございます。仁泉会会員の皆様にとって、幸多い一年となることをお祈りいたします。

昨年の岐阜県支部総会の場において、前任の小木曽和夫先生（学 25 期）に替わり支部長の任を拝命いたしました。この重責を担うには、あまりにも力不足でありますが、会員の皆様のお力添えを得て精一杯努めていく所存でございます。何卒、よろしくお願い申し上げます。

私事ではありますが、昨年還暦を迎えました。「光陰矢のごとし」まさに時の経つのは早いと実感いたしております。昭和 55 年に母校を卒業した後、岐阜大学医学部第 2 内科に入局しました折には、同大学付属病院に勤務なさっていた大阪医大出身の数名の先輩方に柳ケ瀬の飲み屋で歓迎会を開いていただき感激したことを今でも克明に覚えております。その折に仁泉会支部のご案内も頂き、以来、ほぼ毎日、妻（旧姓：田中範子　学 29 期）と共に支部総会に出席させていただいております。若いころは、随分年長の先生方との宴会で酒を頂くのは、かなりの緊張感がありました。実際、大声でどやしつける名物先輩がいらっしゃって初めは面食らったことを覚えています。何回か出席するうちに（私に免疫もでき）、本当は優しくて楽しい先生であることが分かるようになった頃から、後輩として随分面倒を見て頂いた事は、今となってはいい思い出です。それから三十数年が経過し、あの頃大先輩だと思っていた先生方と同じような年になり、今年から支部長を務めさせて頂くことは万感の思いです。

岐阜県支部では、若手の先生方にも少しでも多く参加して頂けるようにと、前任の小木曽先生らの発案で数年前より、各地で活躍されている同窓の先生を講師にお招きし支部総会の前に講演会（名称：クリニッシェ・アーベント）を開いております。今後もこの講演会を継続してまいりますので、講師をご依頼いたすことがあればよろしくお願い致します。

また、これも小木曽先生らのご尽力によるものですが、今年から愛知・三重・岐阜の三県交流会が「新三水会」と銘打ってスタート致します。第 1 回は愛知県支部が幹事となって頂き 3 月に開催される予定となっております。奮ってのご参加賜りますようお願い致します。

最後になりましたが、母校・大阪医科大学ならびに仁泉会の益々のご発展をお祈り申し上げ、年頭の挨拶とさせて頂きます。

年頭所感

大阪府支部連合会会長
佐藤公彦（学 12 期）

平成 27 年（2015）の新春に当り、謹んでお慶び申し上げますと共に、所感の一端を申し述べさせて頂きます。

昨年 12 月 14 日の総選挙では、本年 10 月から実施予定だった消費税 10%を先延ばしして、確実に平成 29 年 4 月実施を国民に付託させた事が大義だったと思います。過去に 5%増税で減速経済から、所謂、橋龍不況を招来させ、平成 10 年 7 月の参議院議員通常選挙で惨敗・退陣した橋本内閣とは明らかに官邸力に差がありました。

安倍内閣は大幅な医療費削減を図るため、本年 1 月から始まる通常国会で医療法等の改正における保険者協議会の法定化等、医療保険制度改革関連法案の提出が予定されています。その関連で昨年 4 月、日本人間ドック学会（対象：健常者）と健康保険組合連合会は本年 4 月より血圧・肥満度・肝機能・総コレステロール・LDL-C 等の健康基準値を緩める方向で具体的数値を発表しております。例えば、高血圧は従来から上が 160、下が 95 でしたが、日本高血圧学会（対象：患者）が平成 12 年、上を 140、下を 90 と云う希望的基準値を設定して以来、高血圧人口が 2 千万人増加（1.4 倍増）し、降圧剤業界も 1 兆円産業の仲間入りを果たしたようです。血圧は元に戻すと共に、ご家庭での測定値も加味されるようです。

私は平成 2 年、植松会長の下に理事として参画し、日医産業保健委員会で 10 年間、健診等の施策に携わって来ましたが、日・独・仏が健診を実施するのに対して、レーガン・サッチャーは健診しない、即ち、健康に対する自由への侵害にて干渉出来ないようで、また、民間保険が主流にて投与群と非投与群等、比較試験が発達しておる関係上、健診の費用対効果は無いと結論づけられていたようでした。日・独・仏は企業の裁判対策に加えて、健康教育にも効果があったと思っています。

私どもは植松チルドレン 1 期生とされているようですが、選対では六石会（ろくせきかい）の諸先生方に大変お世話になりました。石は医師を指し、堺市を除く泉州六市医師会の団結を管窺（かんき）し、畏敬の念を抱いておりましたが、泉州ブロック地区会が昨秋、植木理事長のご臨席、ご講演の下に岸和田で盛大に開催されました。故河﨑茂先生のご発案だったように漏れ伺っておりますが、大阪府連でも府下 11 ブロック（2 次医療圏）毎に泉州のような懇親会組織が出来上がったらイイナァと云った初夢を昭和 90 年の新春に当たり、夢見ております。

大阪医科大学の研究医枠入試に期待する

西区支部長
浅野彰彦（学 32 期）

諸先生方、明けましておめでとうございます。

私は大阪市西区の（公益財団法人）日本生命済生会付属日生病院という 350 床の総合病院で神経内科部長を務めております。平成 8 年 5 月に本学から当院に赴任して 19 年となり最近では柄にもなく日生医学雑誌の編集長職も仰せつかっています。

年に二巻ずつ 40 数年にわたって発行してきた本誌には、当院で研修する研修医が必ず一編の論文を（主に症例報告ですが）投稿するように義務付けていますが、何事も初体験の初期研修医にとっては勿論、指導する上級医にも大変な作業のようです。

そしてその原稿を受け取って編集するというのも結構骨の折れる業務です。本誌も院内で査読してその信頼性を担保することにしておりますので、日常診療に忙殺されている各科の部長に他科の（多くは専門外の）論文をみていただかねばなりません。編集責任者になった最初の号で恐る恐るどれか一編の査読を、とお願いしたある先輩の部長先生は、「それでは今回はこれを勉強させていただきましょう」と他の先生方が敬遠された分野の症例報告を自ら担当してくださいました。院内のいわゆる雑用の一つと認識していた私は、先輩の言葉を聞いて自分の心得違いに恥ずかしい思いをすると同時に、編集責任者としての自覚を持つことが出来ました。

そこで昨年 6 月に発行した編集後記にこのような文を載せました。「本誌は医師がその研究のキャリアを始める第一歩として敷居を低く設定している」が「しかし各診療科部長が査読し医学的・倫理的な問題がないか検討し、事務局では引用文献など論文の体裁基準の順守を確認している」そして「本誌への投稿を端緒としてしっかりとした根を張って将来は大輪の花を咲かせて欲しい」と。

すると全く面識のない某大学の教授から「日生医学雑誌の編集後記に全く同意である。これからも若手医師の指導に努力して欲しい」という励ましのお言葉を頂戴し、その後の職務に自信を持って臨めるようになりました。

さて母校では将来、基礎医学・社会医学系の研究者を目指す医学生向けに新たな入試制度を新年度から導入すると聞きました。諸先輩方をはじめ長年にわたって臨床の場での良医を大勢輩出してきた大阪医科大学ですが、これからは研究分野でも世間の模範となるような医師が育つことを祈っています。

How Doctors Think

北区大淀支部長
山田勝彦（学 34 期）

新年明けましておめでとうございます。

現在はインターネットを基盤としたソーシャルメディアネットワークにより全世界が相互につながり、情報が一瞬にして知れ渡る時代です。その恩恵として日常生活が便利になり、企業や他の組織のガバナンス機能が強化されて透明化されるようになりました。しかし、その反面、世界のグローバル化により 1 つの国の出来事が全世界の危機につながったり、秘密保持の困難から個人情報の漏洩が問題になっているのは周知のことです。現在は将来への期待と不安が大きく交錯している時代です。

個人にしろ組織にしろ、不安定な時は古き良き時代を懐かしんだり、良い未来を切に願ったりするものです。しかし過去を懐かしんだり後悔しても時間は戻らず、未来のことをいくら考えても確実なことを予測するのは不可能です。過去を反省するのは現在をより良くするためであり、未来を良くしようと努力することは既に現在を充実させていると言えます。一番大切なのは過去でも未来でもなく、現在つまり一日一日です。言うは易く行うは難し事ですが、無用の心配をせずに目標を定めて楽しく充実した一日になるように毎日を過ごすことが一番、肝要な事でしょう。尤も「楽しい」「充実した」に関する具体的内容は個々人で異なるでしょうが、仁泉会会員にとって医療・医学において日々、前進することが全員共通の充実した一日を過ごすことになると思います。

表題の How Doctors Think はジェローム・グループマン医師（ハーバード大学医学部元教授）著の「間違える医者と間違えぬ医者」の物語の題名です（日本語版「医者は現場でどう考えるか」美沢惠子訳）。素人・医学生・研修医のために書いた本と著者は述べていますが、読んでいて私自身が日々の診療において如何に先入観に捉われたり、正しい思考法を欠いていたかと思い知らされました。日々、前進するための一助にしています（残念ながら効果は未だ充分に現れていないようです）。医療・医学に携わる者にとって充実した一日を送るのに非常に役立つ一冊と思います。

昨年は世界各地での紛争、エボラ出血熱拡大やデング熱国内発症、多発する自然災害など難事の多い一年でした。残念ながら今年も続きそうな気配ですが、仁泉会会員の皆様方、大学職員の方々、学生の皆さん、そして大阪医科大学にとって楽しい充実した日が一日でも多い一年になることを祈念して年始の御挨拶とさせて頂きます。

謹賀新年

城東区支部長
福田吉彦（学 29 期）

新年明けましておめでとうございます。今年も仁泉会会員の皆様方のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

仁泉会城東支部ですが現在 9 名の開業医から会費をいただき運営しています。毎年初夏頃に城東区内の病院に勤務されている仁泉会の先生方にも参加いただき北新地・京橋や天満などで飲食しながら情報交換をしています。

城東区はその名の通り大阪城の東方に位置し、人口は約 17 万人で大阪市全 24 行政区内で 3 位、面積は 8.42 ㎢、人口密度は約 1.9 万人／㎢で 1 位との事です。JR 西日本の大阪環状線の大阪城公園駅、片町線の京橋・鴫野駅、京阪電気鉄道の野江・関目駅が位置し、地下鉄今里筋線が区のほぼ中央を南北に走っています。企業では牛乳石鹸共進社・イトーキ・タカラスタンダードがありますが、元来中小企業が多く、町工場がたくさんあり、いわゆる下町です。歴史上では1614年の大坂冬の陣で今福の戦い・鴫野の戦いが行われ、もともとは湿地帯が多かったようです。交通の便もよく、買物に出かけるにも便利で住みよい所です。また歯科診療所、接骨院、美容院は大変たくさんあり、すでに飽和状態に思われます。私は産まれてすぐから居住しており、他所で住んでいた事もありますが、生活しやすい所に感じています。

話は変わり近況ですが、10 数年前から大阪府医師会の広報委員に任じられており、2 年に 1 度程会報の表紙写真を提供しなければならず、掲載時期が近づくと大阪、京都や奈良を散歩しながら撮影しています。大学に在籍していた頃から内視鏡（子宮鏡）を担当していたため写真が好きで、きれいな写真を取りたいと思い、重い一眼レフ・コンパクトデジカメ・三脚や一脚などをカバンに入れて歩いています。桜の季節、紅葉の時期にはいろいろ行きたいのですが、休みの日に限り分娩のため外出できず時期を逃してしまう事があり残念な思いをしています。普段はほとんど運動しないため重い荷物を持って長時間歩くと数日筋肉痛が出てしまいます。

数年前までは毎週のように飲みに出ていましたが最近はめっきり減りました。子供たちもそれぞれ独立し最近は夫婦二人で食事に出かけることが増えました。また年に 2 回大学時代の友人たちと定期的に食事に行くことを楽しみにしています。今年は還暦を迎えますのでそろそろ健康にも留意して少しはメタボから脱却できればと思っています。

新年のご挨拶

鶴見区支部長
宮浦康児（学 12 期）

今年で大学を卒業し、医師免許を取得して丁度 50 年が経ちました。

大阪医科大学眼科学教室に入局、12 年間在局し、昭和 50 年 5 月に退局、大阪市鶴見区にて父親の後を継ぎ、眼科医院を開院。現在に至っております。後、昭和 58 年 3 月まで大学の非常勤講師を務めさせて頂きました。

昭和 55 年より 28 年間国民健康保険の審査委員を務め、又、労災保険の審査委員を 18 年間、日本眼科医会の理事、常任理事を 8 年間、日本年金機構の厚生年金障害認定医をも現在勤めさせて頂いております。

昭和 50 年より小学校校医を 4 校、幼稚園 1 園の園医も現在続いて務めております。

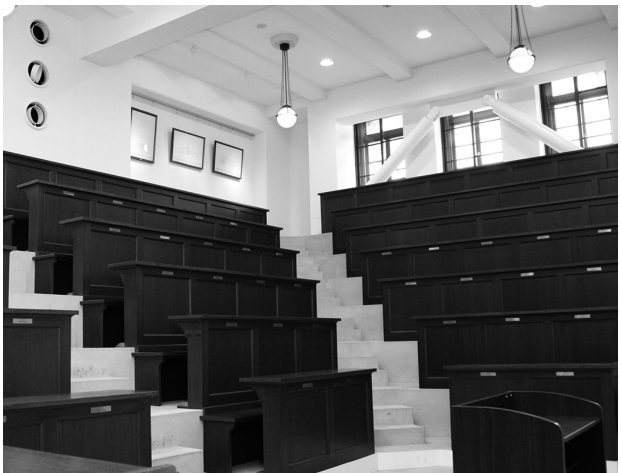
その間鶴見区同窓会会長を現在も続けておりますが、年寄りなので来年には他の先生に交代して頂きたく思っております。

私共が眼科医になった時代に比べますと、医学の進歩はめざましく、眼内手術は言うにおよばず、眼膜疾患に対しても著しく ips 細胞の移植などその進歩には目を見張らせるものが多くあり、現在の医学治療には我々ロートル医では、想像つかないスピードで進歩している現在です。

歳も年です。ぼちぼち息子に後を継いでもらい、楽しい毎日を過ごせたらと思う毎日です。

私事ですが、スポーツはゴルフも約 7 年前に止め、スポーツらしい事は止め、毎日サウナに行き、年に数回のマカオ（カジノ）に行くのを楽しみにしており、これは「ボケ防止」に非常に有効であると自分では信じております。

診療は週 4 日、息子が 1 ～ 2 日を手伝ってくれるので、今のところそうきつい勤務でもなく、毎日の診療を続けておりますが、ぼちぼち交代の期を考え、後 1 ～ 2 年で交代を話し合い、元気の間は頑張って行こうと思っている今日この頃です。



臨死体験

生野区支部長
村田高穂（学 22 期）

新年明けましておめでとうございます。今年も仁泉会会員の皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げます。

正月から少し重たいテーマですが「大脳辺縁系が臨死体験を生み出すらしい？」という話です。

動物の大脳辺縁系は過去の記憶から行動に対する意欲を起こす脳とされ、中でも帯状回は過去に学習で得た長期記憶の中から好きな記憶に基づく行動を積極的に行い、嫌な記憶の行動からは逃避するという行動パターンの調節脳とされます。また、帯状回と脳弓で連絡された記憶の入り口は海馬と海馬傍回が出来事についての記憶、扁桃体が情動の記憶に関係するとされます。海馬という脳の解剖名は認知症との関係から最近有名になったので皆さんも耳にしたことがあると思いますが、扁桃体の機能については不明な部分が多いようです。この小さな脳がとてもストレスに弱く、様々なストレス刺激で活性化し情動喚起（トラウマ）により記憶の保持が強化され記憶固定されることが分かっています。大脳辺縁系は、これらの脳のネットワークとして記憶を蓄え、辛い記憶は行動を阻害し逃避しようとし、楽しかった良い記憶はその後の「やる気」を作り出すと考えられます。

一方、臨死体験の多くが一定のストーリーを持っていて、人の心（精神）が肉体から抜け出ていく現象（幽体離脱）や光り輝くトンネルや美しい花園を見る（天国絵）、向こう岸の見えない大きな川を渡る（三途の川）などです。神父や僧侶の説教に同じような内容がありますが、死後の世界やこの世とあの世の境の存在については科学的に説明されていません。このことは「false memory」という現象で説明されます。実際の記憶ではない話を繰り返し聞くことで、そのことが事実として記憶されるというものです。したがって、臨死体験は、大脳辺縁系に残されたこれら true と faise 全ての記憶が死ぬ間際に再び蘇ることによって生み出される現象と考えられるのです。

「生まれてから死ぬまでの記憶が走馬灯のように蘇り幸せだった」と臨死体験を語った人がいます。臨死体験は、大脳辺縁系を形成しているこれらの小さな脳たちが短時間に激しく活動して見える記憶という舞台のフィナーレなのです。いずれにせよ、大脳辺縁系の粋な計らいで死ぬときに蓄えられていた記憶が蘇るのであれば、実に愉快な体験になるかも知れません。

今年も楽しい記憶を残して、臨死のときに備えたいものです。

新年のご挨拶

西成区支部長
佐々木伸一（学 38 期）

新年明けましておめでとうございます。

仁泉会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年 11 月に戸田均先生に続いて支部長を仰せつかりました。西成支部会は医師会の把握しているところでは 10 名の先生が会員となっております。会員の方以外に未入会の方がいらっしゃいましたら御連絡頂けるように御願申し上げます。

私どもの所属する西成区は西成特区という名のもと、保護患者の受診抑制を区職員が指示するなど医療機関にとっては厳しい状況が続いております。こんな時こそ、初代校長の足立文太郎先生が説かれた「懸命不動」の精神で地域医療に邁進してまいりますので、御指導、御鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

力を合わせて

阿倍野区支部長
福本敏子（学 24 期）

あけましておめでとうございます。

仁泉会の先生方には、お健やかにお揃いで新年をお迎えの事と存じ上げます。阿倍野支部は 15 年程、休眠状態でしたが、藤本正三先生のご尽力により、昨年より、再出発を果たす事ができました。3 月に平成 25 年度の総会を開催し、私が支部長に選任され、伊賀千洋先生（学 29）が会計担当の労をお取りいただく事となりました。阿倍野支部は現在、会員数は約 30 名ですが、大阪鉄道病院には、産婦人科、精神科、循環器内科の 3 科で同窓の先生が部長として頑張ってくださっています。また、開業、勤務の先生方に阿倍野区在住の仁泉会会員の先生方を含めますと、約 100 名にもなります。3 月の総会では、会員同士ほとんど初対面にも関わらず、即座に打ち解けて話しが弾み、学生時代に戻ったように終始和気あいあいと盛り上がり、同窓の有難味をつくづく感じました。10 月には、平成 26 年度の総会を開催することができましたが、この伝統ある大阪医大仁泉会の絆をもっと太く強固なものにしていきたいと副支部長に新宅敬夫先生（学 23）幹事に中野晋吾先生（学 34）岡茂樹先生（学 35）、監事に藤本正三先生（学 2）高木　力先生（学 10）にご就任いただきました。

今後は、若い先生方にもお手伝いいただきながら、病診連携、病病連携を推進していきたいと考えていますが、そのために、学術的な講演はもちろんですが、音楽などの芸術的な世界も、ご一緒に楽しんでいきたいと思っています。

仁泉会の先生方には、本年もご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

初夢にて

東住吉平野区支部長
園谷 昇（学 21 期）

仁泉会会員の皆様には、謹んで新年のお祝辞を申し上げます。また、河野理事長のご就任により、仁泉会は新たな時代に入り、お慶び申し上げます。貴紙からの聊か古風な投稿依頼法と同級生の河野公一先生名の依頼書であり、以下に思いつくままに。

大阪市東住吉平野仁泉会支部に在籍しております。数年前に、さらぬ事情で支部長不在が暫く続き、長老会員から「会計責任でよいので支部長を引き受けるように」との要請があり、現在に到ります。受諾した一週後に、紙袋が届き、一連の書類とともに議事録があり、閲覧させていただきましたところ、議事録には、「支部会員は（日医の）A 会員に限定する」と記載されていました。以来、分を弁えて、支部会費の管理、支部会員の確認、FAX 網整備などの作業に限定してまいりました。

2014 年 5 月に梅田のホテルグランヴィアで仁泉会大阪府支部連合会が開催されたことは仁泉会ニュースの通りですが、当日に仁泉会大学内事務局より、東住吉区・平野区に現住あるいは勤務なさる卒業生の名簿を手渡されました。名簿には多数名の諸先生方がリストアップされており、当方の名簿にない、存じ上げない諸先生方が多く少々驚きました。他地区の支部長様も同様に驚いておられました。大学内事務局の意図は明らかにされませんでしたが、おそらく、仁泉会の支部での組織率を向上させ、他大学に対抗して、大阪府内での勢力を誇示せよという戦略と忖度いたしました。名簿には他の地区で開業あるいは勤務医をなさっている先生方、あるいは、他地区の支部に所属しておられる先生もいらっしゃるようです。

当日の佐藤会長のスピーチで、「しかし、B 会員（勤務医）は・・・」と言い淀んでおられたと記憶します。結局、勤務医の組織化をどうするかという問題に行き着くかも

しれません。実際、私の所属する病院でも、他大学の医局人事ではありますが、修行時代に色々の経験と度胸を積ませるという目的で、目まぐるしく医師の異動は行われております。

それぞれの地区で地域医療を担う会員を中心にするコアー路線と一期一会に基づき広く勤務医も含めるという路線は、両方に正しいかもしれませんが、実務面において、勤務医の異動の補足、支部会員の会費徴収の開始と廃止、FAX 網整備などなど、事務作業は煩雑にはなります。尤も、仮に勢揃いすると実に賑やかにはなりそうですが、人脈の人工的構築は脆弱でもあります。「名ばかり」の支部長には悩ましい。ただ、他の大学群と競って、結束と勢力の誇示は、初夢にはいい。

追記：私事で恐縮ですが、2014 年 5 月の仁泉会大阪府支部連合会の集合写真撮影前に、大急ぎで、受付へ名札を返却して、梅田の雑踏に紛れ込みました。あいにく、①高血圧と②「写真恐い病」という持病を抱えております。①は降圧薬服用中ですが、②は治療薬がございません。悪しからず。

新年のごあいさつ
～つれづれなるままに～

豊中市支部長
渡邊一三（学 34 期）

2015 年が幕を明けました。本年も昨年同様混沌とした日々が続くと思いますと気がめいる反面、強靭な肉体力はもとより、強い精神力を持って来たるべく新しい年を乗り越えていかなければならないと心新たにするしだいです。まずは新年にあたり、恭賀新年、真摯な気持ちでご祝儀申し上げます。正月ということで振り返りますれば、大阪医科大学一般・消化器外科に在籍していた頃、私の名前は一三と申しますが、私の名前にあやかったかのように、私の娘が 1996 年 1 月 3 日に本学産婦人科で生を受けました。名前の一文字に恭という文字を付けたこともあって、恭賀新年ということばを年賀状に記載することを好んでおります。

私は、2000 年 3 月に大学を離れて、豊中市服部の地でわたなべ医院を開設いたしました。大学を離れてはや 15 年が過ぎようとしております。先進医療を行う大学とは異なり、患者さん一人一人と向き合ってレトロに地に足をつけて地道な医療をしております。大学在任中は一般・消化器外科でかなり厳しいご指導を受け、今思えばそのことにより今日の私が存在しているようなものです。大阪医科大学は、私にとってかけがえのないものであって、感謝にたえません。私は、最初の 10 年、診療所の外来、在宅医療を行って忙しい日々を過ごしてまいりました。在宅医療の患者さんを一つに集めたら忙しくなくなるのではないかという発想もあって、2010 年 7 月に有料老人ホームいこいを開設しましたところ、私の意に反して、特に平日は、火を吹くような多忙な生活になってしまいました。大学時代、夜中の 2：00 ごろ廊下を走って、自分は何をやっているのだろうと思い悩む日々がありましたが、今は夜中の 2：00 頃に服部の夜道を自転車で走っており、自分は一体何をやっているのだろうともがき苦しんでおります。しかし、大学時代の苦しさがあったからこそ、地域医療はやりがいがあると信じて日々過ごしております。豊中市医師会の会報で座右の銘をきかれたことがあって、常々私の人生は七転び八起きならぬ、八転び九起きであると思っております。

近年、病院と診療所の連携ということがより重要になってまいりました。大阪医科大学の先生は皆いい先生だから大丈夫といって患者さんをご紹介しますので、当院はもとより卒業生の診療所から患者ご紹介の折は、よろしくお願いします。

とりとめもないことをつづりましたが、新年のごあいさつとさせていただきます。



謹賀新年

摂津市支部長
黒本成人（学 22 期）

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は異次元金融緩和による円安・株高で市場が沸き上がったかと思いきや、消費増税で冷や水を差されたかのように国民消費の低迷が起こるなど、世の中景気が良いのか悪いのか先行き不透明な一年でした。リフレ政策とかで大企業は好調で、消費増税にもかかわらず安倍政権は高い支持率を維持しているようです。ところが医療界にとりまして昨年は、医療費に消費税を上乗せする事もできず、まともに大きな痛手をこうむった厳しい年であったと言わざるを得ません。新年こそは、われわれ医療関係者にとりましても、恵み多き年であってほしいと切に願います。

さて、この紙面をお借りいたしまして仁泉会摂津支部の近況について報告させていただきます。第一に、摂津市では一昨年より仁泉会理事長の河野公一先生を摂津市保健センター理事長にお迎えすることが出来ました。先生には同時に仁泉会摂津支部に籍をおいていただくことになり、会員一同大歓迎で心強く大変うれしく感じているところでございます。第二に皆様におかれましてはすでにご承知の方も多いこととは存じますが、昨年 5 月に国立循環器病研究センターと吹田市民病院が、摂津市と吹田市にまたがる JR 吹田操車場跡地に移転する計画が発表されました。また、その計画と同時にそれらの医療機関を中心とした医療クラスター（大学・医療系企業の進出拠点）形成の立案・計画も行われています。さらにその周辺には地域で働く人たちの居住スペース、健康・福祉志向住宅（スマート・ウェルネス住宅）建設なども含めた町づくりが進められようとしています。昨年 6 月にはそのことを踏まえて、この地区が関西イノベーション国際戦略総合特区に認定されてもいます。そこで、いまこの健康･医療の町づくり計画について、関係省庁･行政･医療機関・医療関連諸団体、業界団体などが検討を始めています。全体の計画は平成 30 年を目途に完成を予定していますが、摂津市医師会もこの街づくり計画に積極的に参画して行こうとしています。この地域は一部北摂医療圏に含まれ、茨木市・高槻市とも隣接あるいは近接した立地であります。今後、大阪医科大学や北摂医療圏の皆様には何かとお世話になることと思われます。ご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

以上、新年のお慶びを申し上げますとともに、仁泉会摂津支部の近況につき報告させていただきました。

ゴールドマンベルクの夢

東大阪市支部長
大西洋一郎（学 25 期）

変奏曲を聴いていると眠くなって眠ってしまった。さすがに、バッハだなあ。第 1 次世界大戦の折には、クルップと共に大儲けさせてもらったが、見切りをつけて、全資産をアメリカに移しておいてよかった。何のかんのと言っても 20 世紀はアメリカの世紀だった。陰りはベトナム戦争だった。トンキン湾事件をでっち上げたがやることなすことはずれた。東洋の敗戦国だった日本が 1950 年以降、軍事費をかけずに、傾斜生産方式、ソニー松下トヨタ・・・が頑張った。農村から都市への人口大移動が起こった。新幹線がそれらを結んで完成させて行ったが。おらが、おらがの無駄な投資がずいぶん行われた。官僚、政治や、裁判官の三位一体で、マスコミの誤導で四位一体となるが。無駄投資と必要投資のどちらにも国が回っているのならメインテ費用は必要となる。アメリカは、キング牧師の公民権運動もあり、少数派の意見も取り入れなくてはならない困難な時期を迎えつつあったが、軍需技術をベースとするアルファーネットで巻き返しを狙っていた。アプリケイション層､プレゼント層､セッション層、トランスポート層、ネットワーク層、データーリンク層、物理層これらの層を自由自在に使いこなせるものがインターネットの覇者となるのである。ＩＢＭは、ｔｈｉｎｋが社是で大型機を得意としたが 1995 年マイクロソフトのビルゲイツによる互換機路線のウインドウズにより、アップルと共に先ず独走した。ソフトバンクの孫正義はヤフー株を手に入れ､ＮＴＴの携帯土管に新規参入していった。グーグルが検索で世界を席巻する。日本検察は、額に汗して働かないものには富を自由にはさせないと堀江正文をほおむった。100 人の堀江がいるときにである。アマゾンがネット直販網をアメリカ、日本で構築しており、楽天の地位を狙っている。いや、すでにうえか。去年、アリババがニューヨーク上場を果たしたが中国のアマゾンである。孫正義が30％の株を持っている。上場してすぐにトヨタの資産を抜いているのである。フェイスブックのマークザッカーバーグ、ラインの韓国企業、熾烈な戦いが続いている。誰が勝ち残るのやら。そろそろ夢が覚めてきた。山中教授のＩＰＳ細胞の臨床応用に大阪医大も参入を果たして、ノーベル医学賞に何人もノミネートされた大阪医大。教授、准教授、講師の中からニューヨーク市場、ナスダック市場、東京市場に上場できる研究成果を発表した。

新年のご挨拶

貝塚市支部長
川﨑康寛（学 35 期）

仁泉会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、当貝塚市を含む泉州地域の８市４町において開業、勤務、あるいは居住されている仁泉会会員にお声掛けして、岸和田市の波切ホールで「仁泉会泉州ブロック 第１回学術講演会」なる会が開催されました。大阪医科大学理事長の植木實先生にもご講演を賜りました。当日ご来賓の大阪府支部連合会会長の佐藤公彦先生によれば、府内でもこのようなブロック単位での集会は初めてとのことでした。府内とはいえ、大学から遠くまたそれぞれの医師会の規模も小さいということもあり、なかなか仁泉会会員同士が集まる機会もありませんので、貴重な機会と言えましょう。今後、定例的に開催できればという意見もありますので、また今回参加いただいた会員の方はもとより、参加いただけなかった会員の皆様にもお運びいただければと考えています。

さて、午年から年が明けて、今年は乙未（きのとひつじ）の年です。そして来年は丙申（ひのえさる）、そしてずっと進んで 2026 年が丙午（ひのえうま）です。丙午の生まれの女性は気性が激しく夫の命を縮めるという迷信があり、この年に出産しないよう受胎調節したりする傾向があります。前々回の丙午であった 1906 年には出生数が前年に比べ約 4％低下、そして前回の 1966 年には何と約 25％も低下しています。新幹線が走り、高度経済成長のまっただ中にもはや迷信でもなかろうとも思いますが、この数字です。その時代よりさらに科学の進歩が進んだ現代でも、結婚式は大安に挙げる、友引には葬儀をしないなど日本人の迷信好きは変わっていません。

1966 年の出生数は 25％低下したとはいえ 136 万人ありました。その後、漸増した出生数は第２次ベビーブームの 1973 年 209 万人をピークに漸減に転じ、1987 年には 135 万人と丙午の年を下回りました。そして昨年 2014 年にはついに出生数が 100 万を切ったという推計もあります。この少子化の波と丙午の効果で、2026 年の出生数の低下（個人的には「2026 年問題」と呼んでいます）はいか程ばかりかと危惧するところです。杞憂に終わればいいですが、出生数が 50 ～ 60 万人程度となるということもあるのではないでしょうか。

新年早々に少々暗い話題となりましたが、小児科医という立場から地域の医療を守っていくという観点からも見逃せません。いざその時に慌てないで済むように準備して行きたいと考えています。

新年のご挨拶

泉佐野泉南支部長
武井公雄（学 18 期）

新年明けましておめでとうございます。

最近はやっと泉佐野泉南というとあぁ関空の近くのと云われるようになり、エボラ出血熱騒動で再々マスコミに報道されたりんくう総合医療センターの地元ということもあって私共も説明が簡単で助かっております。

しかしまだ大阪市内で会議などがあると遠いところ大変ですね、どの位かかりますか？と聞かれることが多く大阪市近辺の先生方からは随分遠方と思われているようです。

当支部は会員数約４０名前後（勤務医会を含め）ですが医師会総会、学術講演会等で常に顔を合わせることが多く、私の怠慢もあり仁泉会の集まりはかなり長い間開催していません。今後若い先生の御力をお借りして実現しなければと思っています。

私共の地区は歴史は古く町は昔ながらの風情を保っていますがご多分にもれず商店街はシャッター通りの様相です。それでも気候は温暖で災害も少なくこれほど住みやすい所はないと自負しております。漁業、農業は昔ほどではありませんが盛んに行われそのせいか元気な方が多いようです。都会の方からすれば声は大きく言葉使いは少々乱暴なところがあり根は正直な方が多いのですが中には診察時に大きな声で「先生この薬のんでも全然ようならへんで、変えてくれへんか」こちらも少々ムッとして「もうちょっと辛抱してのめ」とやり返しています。あまり丁寧な言葉で説明すると敬遠されるようで、このあたりが開業医の難しさというか面白さというのでしょうか、毎日診察はミスがないように慎重に、でも冗談を交えながらのんびりやっています。

とりとめのないことを書きましたが若い先生方で将来開業を考えておられたら是非この地域を候補地の一つとしてお考え下さい。応援します。

最後になりましたが仁泉会諸先生方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。



私の近況報告
（新年の挨拶を兼ねまして）

富田林医師会会長
堀野俊男（学 29 期）

私の近況報告をさせていただきます。3 年前より、富田林医師会の会長をしております。ここで、富田林市医師会となっていないのは、河南町、太子町、大阪府唯一の村千早赤阪村の医療機関も当医師会に所属している関係上、富田林市医師会とは命名していないのです。４自治体がテリトリーに入っているため、自治体主体の「何とか会議」が、４か所で行われます。ということは、医療関係者の代表として、普通の医師会では１回の出席で済むのが、当医師会では４回同じような会議に４回出席することになります。まあ、それだけ多忙ということになります。医師会事業の「３Ｋ」という言葉をご存知でしょうか。一つは、会長、一つは警察医、一つは健康保険の審査医だそうです。３つとも引き受けられている奇特な医師会長の方もおられるかもしれませんが、私、医師会長と警察医の 2 つを引き受けております。大学時代は、法医学と言えば松本先生の講義を受けました。学生時代は、さぼってばかりでしたので、もう一度法医学の教科書を読み返したりもしました。現在の法医学の教授は、同期の鈴木先生が頑張ってくれており、「警察医会」の会合で有意義な講演を聴いたこともあります。以上が、公的な仕事の話でした。私的には数年前より観劇と登山を趣味に生活しております。登山は大学の時山岳部に所属していましたので、昔登った日本アルプスに昔の事を思い出しながら、夏と秋、年２回テント泊で登っています。MR･MS さんの仲間約 10 人程で、穂高･槍･涸沢･上高地･剣と北アルプスを中心に登っています。今夏は甲斐駒・仙丈の南アルプスにも行きました。頂上に立った者しかこの素晴らしい景色は見られないんだという優越感に浸るために、しんどい思いをして登っていますし、しんどいトレーニングもしています。

もう一つの趣味である観劇は、少なくとも月に一度は東京東銀座の歌舞伎座に出務しております。2 年前には、松竹主催の歌舞伎検定試験で 2 級を取得いたしました。これを取得した人は、関西で約 30 人しかいないとのこと。ストレートの芝居・キュージカル等何でも観劇するのですが、大阪では見られないものが多く、やはり日本の中心は文化の点でも東京であると痛感させられます。

今後も、体が続く限り公務・趣味に没頭したいと思っています。どうぞ、今年も仁泉会の皆様よろしくお願いいたします。

ヒポクラテスの木

兵庫県支部連合会会長
日下孝明（学 16 期）

私が所属する明石市医師会の 3 階建ての新会館が平成 20 年 4 月に出来上がりました。中に歯科医師会、薬剤師会が入居しております。周りに 70 種類以上の樹木の植栽をし、その中にヒポクラテスの木（スズカケノキ）が植えられています。この木を入手した経緯を書いてみたいと思います。

旧明石市医師会館は明石の市街地にあり、市の建物の中に間借りのような状況で、駐車場もなく築 30 年を経ていました。平成 13 年に医師会が市の中央にあった国立明石病院の後医療を引き受け、明石医師会立明石医療センターとして再出発した時に、病院の 7500 坪の土地の内、2000 坪を確保し、その中に現在の応急診療所と地域包括支援センターと訪問介護ステーションを作りました。そして平成 20 年に新医師会館を竣工させました。記念植樹を思い立ち、何か特別な木はないかと探していましたら、「ヒポクラテスの木」というものがあることを知りました。そして、その木が京都市左京区の修学院離宮の近くにある武田薬品の京都薬用植物園に植えられていることを知り、早速、本社と交渉し、1 本の枝木を分けて頂くことになりました。そして薬用植物園を訪ね、高さ１０ｍほどの木と対面したのです。

ギリシャの医聖、ヒポクラテスが２４００年前に、エーゲ海に浮かぶギリシャ・コス島にあるこの親株の木の下で、弟子たちに医学の講義をした伝説の木です。現在は孫株で樹齢５００年、直径４ｍのプラタナスの巨木で、医学史巡礼のコースになっているそうです。

１９９５年にヒポクラテスの木から挿し木で育てた苗木が京都パスツール研究所に送られ植えられました。そしてその株から遺伝子が変化しない様に採り木繁殖されたのが薬用植物園の木でした。

調べてみますと、ヒポクラテスの誓いに象徴される伝統にあやかるために、種子を採取し実生したり、挿し木や採り木で若木を育て、多くの医学、医療関係の施設に植樹されているようです。大部分が医学部のある大学や大きな病院に植えられており、一地方医師会館に植えられたのは見当たりませんでした。大阪医科大学にも１９７０年の蒲原株が植えられたようで、確かめますと、現在の講義棟の正面に植えられており、昭和５４年、学２８期の卒業記念に銘板と共に立派に存在しておりました。

武田薬品の厚意で京都薬用植物園から寄贈された１本の１ｍにも満たない若木は大事に育てられ今では３ｍを

超えるほどになっています。

本年もよろしくお願い致します。

新春に思う

神戸支部長
安藤嗣彦（学 20 期）

新年明けましておめでとうございます。今年も、仁泉会員の皆様にとって、幸多き年であります事を祈念致します。仁泉会副理事長に就任してはや丸二年を迎えようとしております。同窓会の活動状況をみますと、地域によっては、かなりのギャップがみられるのが現実です。特に、近畿圏以外では、活動が停止している支部も見られます。支部長のリーダーシップも大切ですが、支部会員の、大学入学から卒業までに育まれた、同級生との友情、恩師の先生への尊敬と感謝の気持ち、クラブ活動で培われた先輩や、後輩との思い等をきっかけに長時間をかけて自然的に発生したものが支部活動の原動力です。恩師の先生方や同窓生同士との友情や絆がなければ、決して生まれるものではありません。この思いを再び呼び起こすためには、現在会員の皆様方に、定期的にお送りしている仁泉会報並びに学報の更なる充実により、同窓会の団結を強くする事が重要と思っております。

さて、話は変わりますが、私のような、大学時代からのテニス愛好者（硬式庭球部所属）のみならず、テニスに今まで興味の無かった多くの皆様にも、昨年の錦織圭選手の活躍に興奮したのではないでしょうか。ＮＨＫのニュースのトップを飾ったり、臨時ニュースの題目に彼の快挙が報じられるなんて、考えられもしない事でした。ＵＳオープン準優勝は、今年のスポーツ界の明るい話題の一つでした。昨年の、日本の好感度ナンバーワンのスポーツ選手にも彼が選ばれていました。確かに、インタビューの言葉の端々に、若々しさ、謙虚さのみならず、秘めたる闘志が醸し出されていたように思います。テニスを現在まで長年プレイしてきた私から見ても、彼の繰り出す、意外なショット（ドロップショット）や突然繰り出すダウンダラインには、目を見張るばかりです。四大大会ともなれば、炎天下で、四時間を超える死闘。二メートル近い長身の選手から繰り出す、ビックサーブ。彼の体格で、現在のランキングを維持するのがどんなに大変なことか。彼のたゆまぬトレーニング、精神力に、ただただ脱帽です。今年こそ、四大大会での優勝、世界ランキング四位以内を期待するのは、私だけの夢でしょうか。



H27 年
こんな初夢を見ました
～川西支部総会記～

川西支部長
土肥恒夫（学 28 期）

ようやく秋めいた 10 月 25 日恒例の川西支部総会が、川西で評判上昇中の日本料理「愉楽かぐら坂」において開催されました。我が支部は A 会員 8 名 B 会員 11 名の小さな支部であるが、初めて外部から講師を依頼して講演をお願いした。病診連携が声高に言われていることより、市立伊丹病院副院長・呼吸器内科部長である閔 庚燁（昭和 54 卒）先生に「北阪神医療圏における喘息死ゼロ作戦」について講演をいただいた。患者、医師、薬剤師の相互連携により COPD から急性憎悪のため死に至らせない方策としてゼロネットノートを作成して、患者本人のアセスメントテストにより臨床病型区分の変化図（複雑な微積分を用いているので私には理解できていない）より適切な治療薬を継続させていくという。これに私は呼吸器内科医としての熱い気持ちを感じた。その上、我が総会のために仁泉会副理事長としてお忙しい安藤嗣彦（昭和 46 年卒）先輩がお出ましになり、的を得た質問か

ら同窓会の在り方に至るまで幅広い話題を提供されて、これまでにない盛り上がった総会になり 3 時間があっという間でした。

私が支部に入会した H8 年には会員総数が 24 名在籍して医師会内に括弧した地位を占めていると先輩から講義を受けたものだが、その後高齢化の余波を受け先輩諸氏が退会され、後輩の A 会員の入会も少なく現在に至ります。現市医師会理事会には二人理事を送り込み（優秀なため会長から引き上げられたのです）、今後のさらなる活躍が期待されます。医師会 B 会員のうち他大学等で研修を受けてきた仁泉会会員を掘り起こして勢力を挽回した初夢を見ました。

謹賀新年

和歌山県支部長
古田浩太郎（学 14 期）

2015 年新春、皆様方に謹んで「明けましておめでとうございます」の御挨拶を申し上げます。・・・・・私は暮れのアイサツを述べる機会のあるごとに、毎年毎年同じ世迷い言を申し上げることにしています。「アイツ、またか」と思われますが、今年もまた『楽しい事・うれしい事は手の指 3 本でも物足りる。でも、苦しいこと、辛く悲しい出来事は足の指を借りてもまだ足りない。』 明けて来年こそは、楽しい事、うれしい事が両手のひら一杯にあります様に心から祈ります。静かで穏やかな新年を迎えられることを祈ります…と。私事でありますが、なぜか暇を見付けて句集・詩集をよく読みます。「お前歳のせいやぜ」と友人達に言われます。自分でも、アーそうだろうと思うのですが。例えばその①　ばあちゃんちせんたくものとつるしがき（浅野つかさ５才：男の子）その②　虫喰いを得て美しき柿落葉（関根　空）その③幸せや唐蜀黍（とうもろこし）を横かじり（甘楽ちづ子）その④束の間の窓の冬日に老いにけり（永田清嵐）その⑤穏やかな季節の移ろいに身をひたせる有難さをかみしめて。佳いお年を。

謹賀新年

広島県支部長
小野誠治（学 28 期）

あけましておめでとうございます。仁泉会広島県支部長の小野です。昨年８月、広島市北部は集中豪雨に見舞われました。多くの犠牲と多大な被害をもたらしました。犠牲となられた方々の御冥福をお祈りします。仁泉会広島県支部の会員には、被害を受けた先生はいらっしゃいませんでした。昨年は広島以外の各地でも集中豪雨があり、御嶽山の噴火、長野の地震もあり、天変地異が、多く起こっています。今年は穏やかな年であるように祈ります。

プロスポーツで、昨年広島は大阪に苦渋を飲まされました。Ｊリーグナビスコカップでは、決勝でガンバ大阪に逆転で敗退しました。プロ野球では、広島カープは、クライマックスシリーズに出ましたが、タイガースに１点も取れずに敗退しました。このシリーズで、がんばったのは、大瀬良投手の力投でした。シーズンでも １０ 勝し、新人王となりました。皆さんはしっていますか。カープの漢字三文字姓の投手はエースとして活躍しているということを。古くからいえば、長谷川、太田垣、安仁屋、外木場、佐々岡、北別府とすべてエースとなっています。大瀬良投手もこの先輩たちと同じ道をたどってもらいたいものです。今年は緒方新監督のもとで優勝し、マツダスタジアムでまっています。

広島県支部会としては、６月 14 日に支部総会をおこないました。仁泉会理事長の河野公一先生をお招きして、講演をして頂きました。化学熱傷という普段はあまり聞くことのない、でもためになる話をきかせてもらいました。そのあと懇親会で、楽しい時間をすごしました。今年の総会の出席者は 26 名でした。またゴルフコンペを行っています。ゴルフコンペの参加者は８名でした。

私は昨年 ６０ 歳で還暦になりました。孔子によると、６０ 歳は耳順とされています。支部会会員の意見をしっかりと聞いて、いい支部会にしたいと考えています。また、仁泉会の発展を願います。よろしくおねがいします。

島根の生活は いかがですか？

島根県支部長
中島 徹（学 25 期）

平成 2 年 2 月より、ふるさと島根の松江市において耳鼻咽喉科を開設して 24 年が過ぎようとしている。仁泉会島根支部長の指名を受けた事により、仁泉会総会に出席して同期の大森英夫理事及び小木曽、子日両君も岐阜県、三重県支部長として出席しており、久々の再会を喜び思い出を語り合った。また久しぶりに 51 年卒同窓会が京都グランビアホテルにて開催され、卒業以来初めてという顔ぶれもあり、なつかしく若い時代の思い出や、更に母

校の医師国家試験合格率にも話がおよび、一層の奮起を期待する声が多かった。

話は変わるが、我が医院のある松江市は、東西に長い島根県の東部にあり、島根県の人口 69 万のうち 20 万強を占める県庁所在地であり、大学病院はないものの、日赤、市立病院、国立医療センターという 3 つの中核病院を持ち、また約 30 分離れた隣県米子市に鳥取大学病院があり、恵まれた医療条件にあると言える。

日本一名前の売れていない県という自虐的カレンダーを作って PR していたが、伊勢神宮と時を同じくして出雲大社の遷宮を迎え、引き続き千家国麿さん、高円宮典子さんの結婚で話題になり、ゆるキャラの「しまねっこ」もベスト 7 に入り、知名度を上げている。テニスの錦織圭選手の好きなノドグロをはじめ、魚も新鮮でスタバもゴディバも出店し、他県と遜色ない地域になっていると自負している。

それよりむしろ、全国に先駆けて少子高齢化が進み、2025 年問題の大きな課題である高齢者施設の不足もおこらず、託児所の不足もおこっていない状態である。ちなみに小生の長男、次女も鳥大の研修医として鳥取大学に返し、医療に従事している。

皆様の引退後の生活の場所として、親子共々こちらへ来られてはいかがでしょうか。魚はうまいし、ゴルフ場も近くて安い、山陰での生活もありかと思われた方々との良縁を願っています。

新年のご挨拶

香川県支部長
石田達也（学 28 期）

新年あけましておめでとうございます。

小生、学 28 期のノンビリ屋です。成り行きで香川県支部長職を引き受け、既に足掛け 8 年経過しましたが、仁泉会総会に赴きますとまだまだヒョコの存在であり、諸先輩の情熱あふれる発言を伺いますと人間形成にまだまだ時間を要するものと考えさせられる次第です。それでも還暦は過ぎ、風体は一人前ですので、ある意味、誠に中途半端な存在といえます。

さて、今年は、地方の仁泉会の活性化を図るという謳い文句で、3 月 7 日に四国地区仁泉会懇談会が催されることになりました。昨年（平成 26 年）9 月に本部よりお話をいただき、戸惑いながらも、会場の決定ならびに高知県、愛媛県、徳島県の支部長への呼びかけをさせていただきました。そこで感じられたのは、やはり仁泉会本部との距離感です。即ち、四国では、日常の生活の中で大学での活動を身近に感じることはありませんし、仁泉会本部との交流を深める機会もありません。さらに、四国は田舎ですし、交通の便がわるく、各県内にあっても会員相互の親睦を深めるだけで相当の努力が必要となります。本部からみますと、四国は一つで集まりやすい印象をお持ちのことと思いますが、現実は全く異なります。この辺りの思いをお汲みいただき、意義深い懇談会を開催していただければ幸いです。

四国の中では、残念ながら愛媛県と徳島県の仁泉会活動が休止状態に陥っています。因みに、入会先に困られて、当県の仁泉会に籍を置かれている若い会員もおられます。このため、この懇談会を機に、是非とも活動を再開していただき、故郷に戻りたいという若い人材の受け皿役を担っていただければと思います。

地方は地方なりに、同門の輪を大切にしていくのが良いのではないでしょうか。本部との距離が遠い分、地元の繋がりを強く保ちたいと切に願うところです。

本年もよろしくお願いいたします。

「卒後 50 周年を迎えて」（我が生涯）

第 14 期評議員 卒後 50 周年
福永晶

仁泉会の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も良い年でありますようにお祈りいたします。

仁泉会事務局より今年が卒後５０周年を迎えるにあたり学部１４期（昭和４０年卒）の評議員である私に「何か一筆」との依頼があり、今年が卒後５０年にあたる事に気が付きました。思い起こせば昭和４０年大阪医大を卒業し、インターン終了１年後に一般消化器外科（板谷外科）に入局。故板谷博之教授のご指導を仰ぎ、多くの先輩、後輩の先生方と切磋琢磨したことが走馬灯の如く懐かしく思い出されます。約１２年間医局でお世話になり昭和５２年５月医局を辞し、広島の生家の近くで外科・胃腸科福永クリニックを開業しました。しかし、広島での勤務経験が全くなく帰広後直ちに開業したので、不安いっぱいで戸惑うことばかりでした。

幸いにも当時広島には大阪医大出身者が多数開業されており、仁泉会広島支部も活発に活動されておられました。開業後直ちに入会させて頂き、いろいろと開業の手ほどき、患者様とのかかわり方、医師会との係わり方、経営の在り方など懇切丁寧に指導して頂き大変助かりました。また、先生方も若く血気盛んで、広島の有名な盛

り場の「流川」でも色々と勉強させて頂き充実した日々を送る事が出来ました。約 35 年間の開業年数で多少のヒヤリ・ハッとを経験しましたが、大きなトラブルもなく診療できたのも仁泉会の皆様方に色々と相談させて頂き助言を受けた事が大きかったと思います。

しかし、3年前（72 歳の時）青天の霹靂で硬膜下血腫を発症したあと術後膿瘍を併発し約3か月の加療を要しましたが、幸いにも後遺症も残らず元気に快復しました。

古稀も過ぎ高齢となり思う事もあり平成２４年３月閉院を決意し「老いては子に従え」の諺もありますが、２人の息子たちがそれぞれ独立し家庭を持ち勤務医として働いている神戸へ転居することにしました。関西には同級生、外科同門の先輩、後輩の先生方が多数開業されており、心強い事も決断の一つでもありました。今は医局の後輩で仁泉会副理事長でもある安藤嗣彦先生が自宅から車で約１０分の近くで開業されており、主治医として懇切丁寧な診療を受けとても元気で仁泉会神戸支部に入会させて頂き日々楽しく過ごさせて頂いています。

私たちのクラスは入学が昭和 36 年ですので 36 会と名付け毎年クラス会を開催しております。（ちなみに 62 名中 10 名が他界）今までは学部 14 期の評議員は四方朋子先生でしたが、２年前急逝された事により同年奈良で行われたクラス会で、私が現在仕事もせずフリーであることにより同級の島田眞久元学長より推薦を受けクラスの評議員に就任することになりました。

皆様方には仁泉会ニュースで読まれたと思いますが、四方先生が平成 25 年２月 28 日に急逝された際莫大な遺産を大阪医大に寄贈するよう遺言状を残されていました。

ご遺志に添い四方朋子先生の名前を冠てた医学部学生のための永久的奨学金制度の設置と特別校賓として図書館１階ロビーに名前を刻み、併せて歴史資料館や正門を含む緑の広場を整備して憩いの広場として市民に開放し、この広場を「四方広場」と命名されることになりました。同級生として大変名誉なことであり大阪医大が存続する限り、私達昭和 40 年卒のクラスが永久的に記録に残る事になり、同級生の「誇り」であり歴史に刻まれることになりました。

今年のクラス会は卒後50周年を迎えることでもあり京都で盛大に行われる予定ですのでクラスの皆様万障繰り合わせて参加し50年間を懐かしみ楽しく語り合いましょう。

とりとめのないことばかり書きましたが、今年から後期高齢者の仲間入りをしますので、これまでの皆様の御厚意に感謝申し上げ、限られた人生を悔いなく生きるため、健康寿命を延ばし充実した日々を送りたいと思います。

最後に仁泉会の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

卒後 30 年に思う

第 34 期評議員 卒後 30 周年
上杉康夫

新年あけましておめでとうございます。卒後 30 年にあたるということで、事務局の依頼で一筆をとりました。

卒業後の 30 年の変化は目覚ましいものがあります。

私は放射線医学に従事いたしております。放射線医学の領域では私の学生時代には原理は知られていても、実用化されていない技術が色々とありました。

例えば、30年前には MRI (magnetic resonance imaging)・PET (positron emission tomography) はそのような方法があると、特別講義で知りえた程度で、実用機は見たこともありませんでした。今はごく普通に MRI・PET を利用しています。また X 線 CT（Computed Tomography) は 30 年にもありましたが、1cm 間隔で撮影されることが主で、細かく撮影するときでも 5mm 程度の間隔といったところでした。本学出身の片田和廣教授 (藤田保健衛生大学) が開発されたところの Helical scanning CT や MDCT(multi-detector raw CT, multi-detector CT) の実用機は 30 年前にはもちろん存在はしていません。今は 320 列面検出器 CT(320row Area Detector CT) を用いれば 1 回転で 16cm の範囲を 0.5mm 幅で撮影ができる時代となりました。

放射線治療を見てみますと定位放射線照射の Gamma-Knife が東大に初めて設置されたのは、1990 年でした。その後 X-Knife、Cyber Knife も開発され現在に至っています。また、強度変調放射線治療 (Intensity Modulated Radiation Therapy：IMRT) は当初は実用時間内に計算を完了させる手段がなく、その後の電子計算機の計算能力向上によって実用化され、21 世紀初頭に普及しました。

卒業当時には片鱗も見られなかった装置が現在は利用できる環境にあります。一方で、卒業当時はよく実施されていたにもかかわらず、現在は実施されないか、ほとんど実施されないものがあります。例えば断層撮影です。

そして、なんといっても驚くべきことは銀塩フィルムが限られた用途以外にほぼ使用されなくなり、電子化が行き渡ったことです。常時シャウカステンに掛かっていたフィルムを１枚も見ない日がもう何日もあります。

この 30 年の変化は大きなものがあり、卒業時に今のような環境が来るとは思いもよりませんでした。すごい時代になったと思う日々です。この新しい年がより佳き年になるよう心より祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

新任教授座談会
専門教授に訊く その①

出席者

寺﨑文生 教育センター 専門教授（学 31 期）、林 道廣 同専門教授、中野隆史 同専門教授（学 38 期）

聞き手

河野公一 仁泉会理事長（学 21 期）、御前 治 広報担当理事（学 33 期）

平成 26 年 10 月 3 日（金）午後 7 時

※文中敬称略

御前　本日は河野理事長と今年の 7 月から新しく専門教授になられたお三方の先生をお招き致しまして、ざっくばらんにお話をお聞かせいただきたいということで企画させて頂きました。本日はよろしくお願い致します。まずは、自己紹介からということでお願いしたいと思います。私は広報担当理事の御前 治です。仁泉会ニュースの担当です。よろしくお願い致します。

河野　仁泉会の理事長の河野でございます。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。遅ればせながらご就任おめでとうございます。早くに大学を出られた会員からは、専門教授、とりわけ教育の専門教授とはなんぞやという話が支部にお邪魔した際などに出ます。そこで会員に向けて、母校の専門教授になられた先生方のお人柄や専門教授の職責と申しますか具体的な取り組みついて、お話いただければと思っております。同窓会の会報に載るだけですから緊張なさらず思う所を存分に語って下さい（笑）。

寺﨑　昭和 57 年卒の寺﨑文生でございます。卒業致しまして、昔の第 3 内科に入局し 2 年間臨床研修をさせて頂きました、それから関連病院の京都桂病院に出て、4 年目から大学院に戻りました。当時の教室の仕事でありました心筋症や心筋炎をやらせて頂いて、大学院修了のころからアメリカのテキサス大学に内科のインストラクターとして赴任して、論文を仕上げました。卒後 9 年目ぐらいで大学に戻ってきまして学位を取得しました。当初は今の中央検査部に 1 年間おりまして、主に心電図の勉強や仕事をさせて頂きました。その後はずっと第三内科の臨床や研究に携わっておりまして、助手から講師、診療准教授になりました。最近の話になりますけれども、機会がありまして教育の方に移らないかというお話を頂き、当時の教育機構に移りました。それから 3 年程たちましたが、この度教育センターの専門教授を拝命致しました。

抱負でございますが…そうですね。実は私は 40 代の頃までは自分が力をつけて、自分が優秀になるために勉強してがんばろうと思っておりましたが、40 代後半になりましてからは、こういう言い方が適切かどうか自分でもよく分からないのですが、何となく人の役に立ちたい、大学に貢献したいなという気持ちが芽生えまして、何かで貢献できないかと。それと、個人的な話で恐縮ですが、私の父は大学の理学部の教授をしております。母も小学校の教員をしておりました。教員の一家で育ってきましたので、その中で教えるという仕事の楽しさ、素晴らしさ、また難しさを見聞きしたと思います。よく両親の会話に出てくる話題が「私の教えた子が今こんなに立派になっていてとても嬉しい」というような話が出ておりました。そういった環境におりましたので、後輩、学生さんを育てるという仕事をある程度分かっていたことも手伝って、今回こちらの部署に移りまして、これまでの循環器内科医の経験を生かしながら医学教育の面から母校に貢献したいと。そう思った次第です。

林　私は昭和 59 年卒業で、1 年間大学で研修医になり、昭和 60 年から高知市立市民病院で一般外科の研修を 4 年間行い、平成元年に大学院に帰学しました。それから 4 年間は主に肝臓の色々な実験をしたり、移植の実験をしたりしまして、平成 5 年に学位を取得しました。その後は大阪の済生会病院に 2 年ぐらいおりまして、そのあとは京都市立病院へ行きました。そこからアメリカのサンフランシスコにある、カリフォルニアパシフィックメディカルセンターの外科にいきまして、主に臓器移植の臨床に携わりました。その 1 年後にスタンフォード大学の外科のポストドクトラルフェローで 2 年間研究と移植の臨床を行い、京大の移植外科に戻りまして、助手を経て平成 13 年から大阪医大の一般消化器外科の方で肝臓移植を行いたいということで、当時の谷川教授に呼んでいただきました。そこから肝臓移植のプログラムのたちあげ、肝胆膵外科のプログラムを作りあげるということで、か



寺崎文生 教育センター 専門教授

1982 年　大阪医科大学医学部卒業
1992 年　大阪医科大学第三内科学教室助手
2002 年　大阪医科大学第三内科学教室講師
2007 年　大阪医科大学内科学診療准教授
2011 年　大阪医科大学医学部教育機構准教授
2014 年　大阪医科大学医学部教育センター専門教授



林 道廣 同専門教授

1984 年　京都大学医学部卒業
1997 年　米国スタンフォード大学医学部外科ポストドクトラルフェロー課程修了
2001 年　大阪医科大学一般・消化器科外科学教室講師
2013 年　大阪医科大学一般・消化器科外科学教室診療准教授
2014 年　大阪医科大学教育センター専門教授



中野隆史 同専門教授

1989 年　大阪医科大学医学部卒業
2001 年　大阪医科大学微生物学教室講師
2004 年　大阪医科大学微生物学教室助教授
2006 年　大阪医科大学教育センター教員（兼任）
2013 年　大阪医科大学教育センター副センター長（兼任）
2014 年　大阪医科大学教育センター専門教授

れこれ 10 数年、現在に至っております。今年の 4 月に教育センターの専門教授を拝命致しました。私の場合はそんなに教育に対する経験がある訳ではないのですが、外科教育というのはかなり特殊でして、いわば徒弟制度のようなものがあります。ちゃんとした外科の技術を継承していくことに私としては使命感を感じております。其処に至ったのはやはり、後輩、後進の先生方に外科手術の手技や考え方を教えていって、さらに彼らが成長して学会発表したり論文を書いたり難しい手術を出来るようになったりするのを見ているうちにだんだんともう少しシステマティックな教育にも携わってみたいなと。医学生の段階から外科的な考え方や丁寧な手技、確実な手技というものを身に着けてもらうようなことができまいかということを考えておりましたところ、このような重責を担わせて頂くことなったという訳です。今後の抱負として、優秀な外科医を一人でも多く大阪医大から輩出させたいという気持ちであります。要するに最近外科の入局が非常に減っておりまして、これは大阪医大に限らず全国的な問題なんですが、どうしても外科というのは 3 K といいますか、きつい　汚い　危険という認識がありまして、手術といいますか外科を志望する医学生が減ってきているのは事実です。ただ、しかしながら外科の技術というのはある程度の水準に保つためには、あんまり数が減ってもダメですし、数が減ればどんどんと教えていける人間も減っていきます。そうしますと一定の技術水準を今後日本で保つことが難しい時代がくるのではないかと思います。一方、いま医学やそのほかが発展の途上にある国では、逆にどんどん外科医は増えておりますので、そのうち日本の医療技術、特に外科の手術技術がそういう国に追い抜かされることになりかねない。例えば、日本でこの手術を受けるのが難しい、この技術を継承している外科医が少ないので、中国に行ってくれとかベトナムに行ってこの手術を受けてくれという、そういったことになりますと日本の医療が根本から崩れてしまいかねないと思っております。そういう意味から外科の魅力を少しでも学生に知ってもらい入局してもらって早く優秀な外科医として 1 人立ちできるような、そういう所までのサポートをしてみたいと考えております。

中野　平成元年卒の中野です。平成元年に大阪医大を卒業してからすぐに基礎の大学院に入りまして微生物専攻で 4 年間いきました。その間にカリフォルニアハーバー UCLA メディカルセンター、UCLA の附属病院の一つなんですけれども、そこの小児感染症のリサーチフェローで 1 年ちょっと留学させて頂きました。そこでは、HIV の研究をずっと進めておりました。学位の仕事もそこで続けておりました。その後大学院を修了して助手になり、学内講師になりました。その時に阪大の先生にご縁があり、国際協力事業団のエイズ対策プロジェクトに参画して 2 年間フィリピンに行ってまいりました。向こうのマニラに研究と検査の中央センターのようなものを作る。そういったプロジェクトだったんですが、幸い、今のところフィリピンはエイズがそこまで拡がっておりませんので、僕がやった仕事がそこそこ効果があったのかなと思っております。その後、助教授、准教授ということで現在に至りました。

ずっと教育に携わっておりまして、色々な先生にお声掛けいただきましたので入学前の高校訪問、模擬講義、オープンキャンパスから入試関連の行事、1 年生の講義も担当しておりますし、2 年生の講義実習も担当しておりますし、よくよく考えると 3 年生も 4 年生も担当しておりますし、5 年生も BML 配属（Basic Medicine Learning：研究室配属：旧基礎配属）もやっております、今回 6 年生のメンターにもなっております。感染対策室も兼務しておりますので、卒後の教育にも携わっております。改めて考えみますとかなり広い範囲の教育をやってきたんだなぁと思いまして、その教育の機会を頂いたのは何かの縁といいますか、それでこの経験を生かしてなにがしかの恩返しといいますか、それをしないといけないなというのが一番のきっかけです。国家試験のことなんかもありますが、恩返し出来たらと思っております。

専門はもちろん、感染症・微生物なんですが、教育というのはこれから国際基準に則ったカリキュラムとかでは世界も見ていかないといけないし、一人ひとりの学生さんを担任とかメンターとかで対応しないといけないし、マクロな視点とミクロな視点を常に繰り返してやっていかないといけないのが教育だなぁというのが何となくわかってきました。我田引水で申し訳ないのですが、微生物・感染症の世界も新型インフルエンザなんかも地球儀を見ながら、一方で顕微鏡でウイルスを見ながらという風にレベルを変えながら全体をまとめていくという作業がありますが、教育にも必要じゃないかと思っております。教育システムを構築するのは 1 人では絶対にできませんから皆さんの意見を聞きながらやっていきたいと思っています。

河野　なるほど。先生方が教育を目指された背景といいますか理由がわかったような気がします。お聞きしたいのは、早く大学を出られた先生は卒前の教育とは大きく違っていて今の教育がわかりにくいと思うのですが。

御前　そうですね。私も卒業して 30 年になりますが、私たちの頃はスモールグループティーチングが流行りだした頃でした。

河野　CBT（Computer Based Tests：共用試験）や PBL（Problem-Based Learning）など新しい用語も最近では増えていますが、そのあたりのことをお教えいただきたいのですが。

中野　CBT の話をするとなると臨床実習の話をしないといけません。今までは見学型で見ているだけのものだったのですが、チームの一員として医師として学生も参加するというのが「クリニカルクラークシップ」と呼ばれるものです。臨床実習が本当にその姿になっていくとすると、患者さんに外科的な行為も含む医療行為をしないといけないわけですが、医師免許を持っていない 5 年生や 6 年生が患者さんを直接扱っていいのかということがあって、せめて十分な知識と技術と態度を身につけているということを社会に説明する必要があります。いわゆる阻却要因って言いますけど、医師法違反じゃないよと、この学生さんはきちんとした知識と技術を持っているので患者さんを扱ってもいいと。それは大学が責任を持つということで、全国共通の試験を臨床実習の前に導入したという流れです。それが共用試験でコンピュータベースで知識を取得する CBT と、客観的な技能試験（OSCE）をして態度と技術を見ようという組み合わせになっています。試験そのものは全国共通です。今までは、判断基準は各大学が決めることになっていたんですが、昨年から CBT に関しては点数をきちんと決めて全国統一の基準でやりますということになりました。

河野　その試験を行う時期に関してはまちまちなんですか？

中野　時期はそれぞれありますが、各大学ともだいたい 4 年生の終わりごろには行っています。5 年の夏にやっているところもあります。

河野　文科省が決めて画一的にするということではないんですよね？あくまで臨床を学ぶ学生の資格を担保するというような、アメリカ的な実習制度ということでしょうか。

中野　そうですね。あくまで全大学が自主的に参加してそのシステムを用いると。特に法律で決まっているわけではなく、国がバックアップしている試験でもないということです。

御前　林先生、今のお話の「外科的な行為」というのはどこまで入ってくるものなのでしょうか？

林　今のところは手洗い、ガウンテクニックなどのかなり基本的な外科手技の一歩手前の入門的なところですね。あと採血とかも入ってきます。もう少し上に行きますと縫合ですね。あくまで学生ですのであまり危険な行為や高度な技術なんかはできませんね。患者さんの安全性のこともありますから。内科の先生にも身につけておいて

いただきたいような基本中の基本な外科の手技というところです。

寺﨑　それに関連しまして、先ほど出ました共用試験なんですけれども、知識をしっかり勉強するのが CBT。僕たちの頃にはなかったのですが、基本的な臨床技能を勉強して行う試験がオスキー（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）で、態度や診察手技のお作法をシステマティックに学ぶのがオスキーとなります。挨拶がきちんとできるというな態度を評価する試験ですね。最近導入されましたが、今では全大学の医学部で取り入れられています。

河野　それともうひとつお聞きしたいのは臨床教育が、アメリカの渡米医師国家試験に対応できるようにとアメリカサイドからの要求があったようなことをお聞きしたのですが。

寺﨑　海外ではもっと早く医療現場で働ける医師を育てるべしという、学生時代からそういった気持ちでしっかり患者さんに接していろんなことができるようにという考え方があるんですね。この点が日本ではとても遅れているという指摘があって、日本の医学教育はガラパゴスだというようなことを欧米の先生方はおっしゃるんですが、良い面もあるけど悪い面、遅れている面もあるよと。ですので今は、基本的には学生時代から臨床の現場に立たすようにという流れが強くなっています。

河野　臨床参加型、早期から臨床を学んでくという流れは続くのでしょうか？

寺﨑　そうですね。この流れは止められないと思います。日本でも国際認証を行う機構が出来ておりますし、各大学ともその認証に向けて動いてるという状況です。

河野　もうひとつは他の学部でも座学が多いと思うんですが、少人数でのグループ学習といったことも流れの中であると思うのですが。

寺﨑　いわゆる PBL ですね。10 年前くらいからですかね。これはいいぞということでそういう動きが出てきたと思います。その当時の先生方がかなり努力をされて導入されたんですね。いかにディスカッションを通じて自分の考えを発表するのかということですね。いわゆる臨床推論を行う能力を養うのに大変効果的な教育方法です。そういうすごく良い面があるのですが最近はそれだけではなくていくつか課題も出てきたりして、これは大阪医大の非常にいい教育方法ですけれど、少し見直す部分が必要になってきました。

中野　PBL っていうのは臨床医が患者さんを診察して診断にたどり着くまでのプロセス、いわゆる臨床推論、それをひとりでするのではなくて、グループディスカッションをしながら診断を絞り込んでいくことです。その中で自分の知らないところを見つけて、自分で問題を解決していくという習慣を身につけようという。10 年ほど前に導入してからしばらくは、先生方も学生さんも緊張感や刺激を持っていたんですが、慣れてくるとどうしても制度疲労というものが出てきて、最近はそれが目立つようになってきました。高いモチベーション、臨場感がないとうまくいかないシステムですから、今のままではいけないなと感じています。教育全般に言えることだと思うんですが、いくらいいシステムを組んでも、やはり常に改善していい緊張感を持続させていかないといけないということですね。とはいえ、完全に座学中心に戻るということは、もうありえないですよね。国際標準の観点から見てもそう言えると思います。自分で勉強して自分で気づいていくというような課題ベースの勉強というのは、国際的に見ても避けては通れないですね。そのより良いシステムに向けて形を変えていく必要はあります。さらに言うと、今後新しいシステムができたとしても 10 年は持たない。どんどん新しいものに変えていかないといけない時代です。

以下次号に続く


河野公一 仁泉会理事長


御前 治 広報担当理事

TOPICS

2014 年度 医師臨床研修マッチングで 大阪医大が 6 位にランクイン！

文責／安藤嗣彦（学 20 期）

医師臨床研修マッチング協議会による 2014 年度の「医師臨床研修マッチング」の結果が先ごろ公表されました。大阪医大は定員充足率のランキングで 6 位となり、残念ながら数年続いた充足率 100% を達成することはできませんでしたが、関西圏では京都府立医大に継ぐ順位となり、相変わらずの高いマッチング率となりました。

ちなみに今年度のマッチングに参加した病院は 1015 施設で、参加者は 8988 人。実際に希望した病院との間でマッチングが成立したのは 8399 人（マッチ率 95.8%）でした。

全国的に市中病院とのマッチングを希望する医学生が増加する中、母校にこれからも多くの優秀な研修医が来ることを期待しています。

受賞報告

谷本芳美先生（学 50 期）の受賞のお知らせがありました。
誠におめでとうございます。　事務局編集係

第 5 回 Geriatrics & Gerontology International 優秀論文賞受賞。

2014 年 6 月 12 日に開催された日本老年医学会総会において。
（Geriatrics & Gerontology International（Vol.13）に掲載された論文の中より）。
受 賞 論 文：Association of sarcopenia with functional decline in community-dwelling elderly subjects in Japan　Volume 13, Issue 4, October 2013, Pages: 958–963,
Yoshimi Tanimoto, Misuzu Watanabe, Wei Sun, Keiji Tanimoto, Kanako Shishikura, Yumiko Sugiura, Toshiyuki Kusabiraki and Koichi Kono.

日本公衆衛生学会奨励賞受賞。

2014 年 11 月 5 日に開催された第７３回日本公衆衛生学会総会において。
奨励賞受賞講演タイトル：地域高齢者における介護予防の視点からみたサルコペニアの意義について



左／谷本芳美先生
右／高槻保健所　所長　高野正子先生

学会報告

第33回 Microwave Surgery 研究会 (2014 年 9 月 12 日、13 日)

文責／一般消化器外科教授 内山和久（学 32 期）

9 月 12 日、13 日の 2 日間、たかつき京都ホテルにて、第 33 回 Microwave Surgery 研究会を開催致しました。マイクロ波は優れた凝固･止血機能を特徴とし、約 35 年前に肝切除術に応用されたのが最初で、その後は、肝腫瘍の局所治療としても広く使用されてきました。近年は、肝臓領域だけでなく、呼吸器領域で、高濃度酸素環境下でも発火の危険性が低く、焼灼による組織の炭化や煤煙発生をしないことから、気管支鏡下での腫瘍焼灼や気道狭窄解除に使用されています。昨年 4 月には婦人科領域でも、子宮筋腫や子宮腺筋症に伴う器質性過多月経に対して、マイクロ波を用いて子宮内膜を基底層まで焼灼･凝固することでその機能を喪失させ、経血量の減少を図る治療「マイクロ波子宮内膜アブレーション」が健康保険適応となっています。そういった環境の中、今回のテーマは「マイクロ波治療の新しい展開」とし、3 つの特別講演を行いました。1 つは世界の動向を理解する意味で、三重大学 IVR 科の山門亨一郎先生に、現在世界で施行されている各種アブレーション技術のレビューについて講演していただきましたが、やはり予想以上に、肝・肺･腎･副腎･骨･乳腺･甲状腺と幅広い分野の腫瘍の治療に対して使用されていることを再認識しました。

また，近年の外科手術手技にはエネルギー手術デバイスは必要不可欠で、高周波を利用した電気メス、ベッセルシーリングシステムや超音波凝固切開装置などが頻繁に利用されています。しかし 1 つのデバイスでは、剥離操作に不都合があったり、止血機能が不十分であったりと、複数のデバイスを用いることが多く、all in one のデバイスが待ち望まれていました。そこで「マイクロ波手術デバイスの開発」というテーマで、滋賀医科大学外科の 仲 成幸先生には、既存の手術デバイスの不十分な止血機能を強化し、剥離から切離までを all in on に行えるマイクロ波手術デバイスの開発から動物実験の良好な結果を紹介していただき、臨床応用も近いと感じました。

最後に、基礎研究の分野で、九州工業大学の大内将吉教授には“医療の場”だけではない、ライフサイエンス技術としてのマイクロ波加熱というテーマで、研究成果を講演していただき、マイクロ波照射はあらゆる化学反応を促進し、通常 100 分の 1 の時間短縮をもたらすため、無機材料や有機合成はもとより、酵素反応や細胞培養にまで幅広く使用されていることが分かりました。以上の 3 つの講演と一般演題 32 例の発表で、参加人数も予想通りの 100 名に達し、大変盛況のうちに終えることができました。

Microwave Surgery 研究会終了後は、研究会に併存された市民公開講座を、胃･大腸･肝臓･乳がんに分けて「ガンの外科治療」というテーマで、開催しました。講演終了後の質疑応答では、さまざまな角度から多くの質問を受けることができ，市民の皆様の理解も深まったと思います。

以上 2 日間と短い間でしたが、無事研究会を終えることができました。これもひとえに仁泉会をはじめ，関係する皆様方のおかげであり、この場をお借りして、大阪医科大学　一般・消化器外科一同、心より感謝申し上げます。



クラス会だより

辰交会の報告
（平成 26 年 10 月 25 日）

文責／藤本正三（学 2 期）

2 期生は旧制で予科 3 年、医学部 4 年、インターン 1 年と戦後の翌年に入学、物資欠乏の学生生活でしたが、心意気は盛んで、何らかのクラブ活動に参加し、最初の夏休みに当時丹波篠山にあった（旧陸軍兵舎跡）兵庫県立医大予科（現神戸大医）に定期戦の申し込みに行きました。（現西医体に発展）67 年前のこと。今思えば夢の様です。



人間の死亡率は１００％。この世に生を受けた者は例外なく死を迎えます。我々のクラスメイト 81 人中、生存者 24 名、6 人が集まりました。口も、舌も達者。来年の再会を約束して散会しました。

前列左から、藤本、大野、岩神各先生
後列左から、湖崎、勝谷、中村各先生

第 5 回大阪医科大学卒業生同好会ゴルフ
平成 26 年 11 月 9 日（日）
於 小野グランドカントリークラブ NEW コース

文責／田中 陽（学 11 期）

5 回目の今年は、学 13 中埜肇先生の御世話で、10 日前に開催された日本シニアオープンと同じ会場で行いました。生憎の雨で距離が出ず、その上グリーンが難しく、74 歳から 81 歳の高齢者がフロントティー６２１９Ｙを使いましたのでパー 4 は殆どパーオンしませんでした。来年度からはゴールドティーを使いますので多数のご参加をお待ちしています。

結果（WP）

順位	名前	卒業	HDCP	NET
優勝	中埜　肇	13 期	２０．４	７３．６
準優勝	田中　陽	11 期	２８．８	７５．２
3 位	西村道也	12 期	２５．２	７７．８
4 位	山本勝彦	13 期	２６．４	８０．６
5 位	新見紘一	13 期	３０．０	８１．０
6 位	小山武俊	7 期	２８．８	８６．２
7 位	福森英雄	11 期	３６．０	８９．０
8 位	藤原弘久	13 期	２７．６	９４．４

第 6 回 27 年度は 11 月 15 日（日）小野グランドカントリークラブ NEW コースにて
4 組９：０３スタートで行います。
尚、本年度以降の開催につきましては、下記のように決定しました。

記

日時：１１月第３日曜日
会場：小野グランドカントリークラブ
（兵庫県小野市中谷町１４１３）
０７９４－６７－１５００
参加料：３０００円
締切：2 週間前
参加申し込み先：FAX でお願いします。
学 11 期　田中　陽　FAX０８５９－６８－３５６２
学 13 期　中埜　肇　FAX０６６－８３３－１７４８

47 同窓会 2014

文責／古林光一（学 21 期）

平成 26 年 11 月 2 日～3 日に開催されました。東は横浜から石田秀夫先生、西は島原から中村晋作先生夫妻、北は松本から山田雅人夫妻、福井から青山文代先生、南は和歌山南部から浜口卓也先生。みんな、遠方より集まってくれました。岡野准先生夫妻も、少し半身不全麻痺は残りますが、元気に参加してくれました。23 人集合しました。

京都駅に集まって、嵐山からトロッコ列車に乗りました。天気予報は雨でしたが、晴れ男が多く、雨は降らずに、徐々に晴れ間が出てきました。トロッコ列車は酒呑童子も出てくるし、ナカナカ面白い。亀岡・湯の花温泉に宿泊。みんな、しゃべる・シャベル、如何したのと云う位、沢山話が出てきます。温泉に入るのも忘れて話をして、夜遅くまで飲み明かしました。同室になった河野公一先生、イビキで寝れなかったでしょう。私はよく寝ました。済みませんでした。部屋割りは上原春男先生ですので、勘弁してください。

紅葉には、ほんの少し早かったようですが、保津川下りは久しぶりで、趣があって良かった。雲で蔭ると、少し寒い位です。船に1時間40分、ジーと座っていると、降りる時、ふらつきました。歳を感じますね。嵐山で昼食を取って、現地解散。今回初めて、旅行業者さんのお世話になりました。これからは業者を入れましょう。そうでないと、幹事さんの負担が多すぎます。

幹事の上原春男先生、良い企画を立ててくれて、ありがとうございました。いつも、事務局をしてくれている、内田英一先生、林豊行先生ありがとうございます。来年も大阪でやることになりました。何か趣向を考えましょう。皆さんのご要望をお聞かせ下さい。



４７同窓会　京都 湯の花温泉 おもてなしの宿 渓山閣　2014年11月2日

河野・中島・石田・内田・松崎・林・上原・中村夫人・坂中・山田・那須・浜口・山田夫人
青山・阪口・伊藤・岡田・中村・舞妓・岡野・岡野夫人・古林・陳・陳夫人

平成 26 年度仁泉会 和歌山県支部総会の報告 （平成 26 年 11 月８日（土） 於ホテルアバローム紀の国

文責／湯川裕史（学 29 期）

仁泉会会員の皆様にはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。去る 11 月８日（土）に仁泉会和歌山県支部総会が行われました。

まず古田浩太郎支部長（学 14 期）からご挨拶を頂き、その後、田伏俊作先生（学 20 期）からの会計報告と、欠席の柳川泰彦先生 (学 28 期) の代理で柳川百世先生（学 31 期）からの会計監査報告に引き続きまして、湯川から庶務報告をいたしました。ご年配の先生方や、いろいろと役職や学会との関係でご参加頂けない先生方からは、欠席のお返事と一緒に近況報告の欄にひと言記入して頂いておりまして、総会でご報告させて頂きました。最後に、

ご出席の先生方／学 20 期　安藤嗣彦先生　学 32 期　岡村武彦先生
16 期　寺田泰治　17 期　中田勝次　学 14 期　古田浩太郎　学 20 期　田伏俊作　学 25 期　橋本忠明
学 27 期　向井龍一郎　学 29 期　湯川裕史　学 31 期　柳川百世　学 32 期　松谷良清　学 36 期　吉田隆昭
学 41 期　木下博之　学 41 期　丸山晋右　学 42 期　塩崎　憲　学 43 期　坊岡進一　学 53 期　家田淳司
学 53 期　山本直之　学 56 期　小林　彩　学 61 期　浅江仁則　学 62 期　仲河恒志　学 62 期　岡田圭次郎

来年の総会も平成２７年１１月の第２土曜日に和歌山市で開催することをご承認頂きました。

引き続き本年は、新阿武山病院院長の岡村武彦先生（学 32 期）をお招きしましてご講演を賜りました。「精神科医療におけるスポーツの意義」とのテーマでお話を伺いました。スポーツ特にサッカーを例に挙げて、わかりやすくかつ納得できるお話を聞かせて頂いたと思います。

・ゴールキーパは我慢するポジションである。
・信頼できるパス交換（＝治療）からゴール (＝患者) を目指す。
・Resilience とは物理学用語では弾力、反発力であるが、疾病抵抗性あるいは抗病力、または健常人の発病防御因子と発症後の回復促進因子の総称でもある。
・認知行動療法とは認知に働きかけて心のストレスを軽くしていく治療法であり、スポーツのコーチングに似ている。
・スポーツの治療効果は「楽しさ」と「継続」である。

等々、頭や心に残ったことを羅列しましたが、もちろんご講演ではそれらを順にわかりやすく、なるほどと納得させていただけるようにお話しして下さいました。有難うございました。（頭に残ったこと、間違えていましたらすみません。）先生の、精神障害者によるフットサルサッカー活動のますますのご発展を期待しております。

続いて、仁泉会本部から安藤嗣彦副理事長（学 20 期）にお越し頂き、お話を頂きました。仁泉会と大学の関連についての歴史と現状について、なかでも大阪薬大や高槻高校・中学との法人合併の件や、四方先生（学 14 期）からの寄贈から奨学基金の設立の件などを教えて頂きました。大阪医大を盛り上げるには同窓生や支部の団結が大事であるから、和歌山県支部はしっかりしているとのお褒めの言葉を頂きました。

総会、講演会、集合写真撮影の後は、懇親会となります。安藤先生、岡村先生にもご参加いただきました。ほとんどの先生が１年ぶりの再会でありますから、旧交を温めるようにあちこちでひざを突き合わせて話に花を咲かせていました。恒例の、先生方からの近況報告も例年になく大いに盛り上がって、懇親会は学歌斉唱でお開きとなりました。

最後に、どなたか和歌山の地に出向いて旧交を温めるとともに一言しゃべってやろうと言って頂く方、募集いたしますのでご一報ください。



ISSUE

リレーエッセイ
「睡眠医療と私」

川田誠一（学 34 期）

仁泉会の集会や学術講演会等で大変お世話になっている大先輩の三宅ヨシユキ先生からリレーエッセイのバトンを受け取った 60 年卒の川田誠一です。高知市内の高知鏡川病院に勤務し、睡眠医療センターの所長をしています。卒後母校精神科でお世話になり、子どもの小学校入学や両親の老後のこと、また、田舎暮らしを再び楽しみたいと帰郷した私が、当初は思いもしていなかった睡眠医療に、今、どっぷりと浸かっている経緯をお話しします。

12 年ぶりの高知の生活は、鰹の刺身やタタキ、天然うなぎ、土佐の赤牛、フルーツトマト、文旦等の食材の豊かさを再認識し、仁淀ブルーで有名な仁淀川での水遊び、ダイビングスポットの柏島、太平洋での船釣り、県立自然公園梶ケ森の登山等自然を家族と満喫していました。親戚の医師の紹介で勤務し始めた病院の仕事は、忙しいどころか 17 時半には帰宅でき、通勤時間も車で 15 分、このままのんびりと過ごすのも悪くないと考えていました。

ところが 1 年が過ぎたころ、重症の睡眠時無呼吸症候群 (SAS) を合併した患者さんを診察。精密検査依頼のために県内の医療機関を調べましたが有りません。当時、これは高知に限ったことではなく睡眠医療の専門機関は全国的に大変不足していました。言い遅れましたが母校精神科では睡眠障害を治療･研究する睡眠グループに属していました。今から思えばこの時が人生の分かれ目、分岐点でした。もやもやした気持ちで数か月間が経ったある日、意を決して理事長に「睡眠医療の専門部門をつくりたい」と相談しました。懐の広い理事長で、いっしょに国内外の睡眠医療機関を視察し、平成 11 年に終夜ポリグラフ検査室 (PSG 検査室) を併設した四国で初めての睡眠専門外来を開設しました。その後、SAS の運転手の起こした新幹線居眠り運転事故を契機に睡眠医療への関心が一挙に高まり、不眠症、レストレスレッグス症候群、レム睡眠行動障害等がマスメデイアで取り上げられ、時代も後押ししてくれました。また、仁泉会の先生方には、各地域の講演会の講師として呼んで頂いたり、患者さんを紹介して頂いたり、大変お世話になりました。この場を借りて深謝致します。

平成 16 年には PSG 検査室を 9 室併設した中四国最大の睡眠医療センターに発展し、ますます多忙となりました。加えて、4 年前から高知市医師会、2 年前からは高知県医師会の広報委員となり、描いていた田舎暮らしとは随分違った毎日を送っていますが、これも結局は “のんびりできない” 自分の性（さが）だと思っています。

バトンは睡眠グループの後輩である学 39 期の江村成就先生にお願いします。宜しくお願い致します。

どうでもエエ話（6）
「そばの細道」

西村 保（学 4 期）

そばは中国が原産で縄文時代の晩期に朝鮮半島を経て日本に渡来してきた。もともとそばは旱魃に強いので救荒用食料として栽培されるようになり、奈良時代には既に食べられていた。もちろん当時は米や麦と同様に炊いたり、蒸したりしたものであった。そして鎌倉時代になると禅僧が中国からひき臼を持って帰ってきたのでそばをひき臼で挽いて粉にし、そば掻き（そば粉を捏ねて餅状にしたもの）やすいとん（そば粉を捏ねて団子状にし、汁で煮たもの）にして食べられるようになった。そして現在のように細長く切っため 麺状の、所謂そば切りが登場したのは戦国時代からであった。

そばは各地で栽培されていたが、本格的な栽培が始まったのは滋賀県の伊吹山付近だと云われている。それで最初は大阪でそばが食べられるようになった。特に豊臣秀吉が大阪城を築城する際に膨大な資材を必要としたが、その資材置き場を砂場と称した。現在の西区新町の南公園付近だと云われている。その砂場で働く大勢の職人や人夫の食べ物が主としてそばであった。それを砂場そばと云った。その後大阪では、うどんの本場である讃岐に近いこともあり、より安価で満腹感が得られるうどんが主に食べられるようになった。このために大阪で麺と云えばうどんを指すようになった。一方、東へ移った行ったそばは、信州がそばの栽培に最も適した気候風土だったので、信州そばがそばの代名詞になった。それが江戸に流れ、江戸でそば食文化の華が開いたのである。

そばはもともと粘りがないので、麺にするにはつなぎが必要であり、そのために小麦粉が用いられた。その代表的なのが、そば粉 8、小麦粉 2 の割合で練られた麺で、二八そばと称された。その後自然薯、卵白、その他、色々なものがつなぎに用いられ、その割合、練り方、また練るとき

に用いる水でそばの風味が異なり、そば職人の腕の見せ所であった。（現在は何種類かの既成のつなぎ粉が市販されている）

こうして作られたそば麺は色々な形にして食べられた。

ざるそばは、竹ざるに盛ったそばで、汁は味醂を加えた甘汁でコクがあり、わさびが添えられる。

もりそばは、茹でたそばを冷やしてからせいろに盛ったそばで、汁に味醂を入れない辛汁である。

かけそば、またはぶっかけそばは、夏は冷やした汁、冬は温めた汁にそばを入れたもので、江戸末期になるとそばの上に色々な具、つまり天ぷら、天かす、卵、あぶらあげ、あつあげ、鴨南蛮（ねぎ）などを載せて食べるようになって今日に至っている。これはうどんも同様である。

そば店に庵のつく屋号が多いのは、江戸時代、浅草に称往院という寺があり、その境内に道光庵があった。その庵主が、かつては信州のそば打ち名人だったので寺に参詣に来た人達にそばをふるまったのが評判になり、その後そば屋が道光庵にちなんで屋号を○○庵にとしたのである。また、更級とか藪を屋号にしているそば店も多い。更級とは信州の姥捨て山伝説のある一地方で、良質のそばを産生した。更級そばとはそばの実の中心部分のみを挽いて作った、白くて上品な香りのするそばである。藪とはかつて、雑司ケ谷や鬼子母神門前町など、藪が多い所にそばの名店が多かった。その系列のそば店が藪を屋号にしたのである。藪そばは、そばの実の甘皮の色を取りいれた淡緑色のそばである。どちらがおいしいかは、各人の好みによるもので一概には云えない。

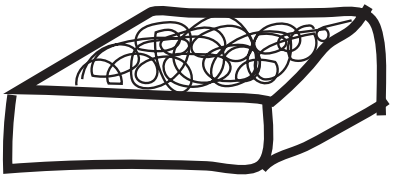
そばはまた、年越しそば、引越そばといった縁起ものでもある。

まあ、おいしければどうでもエエ話ですけどネ。

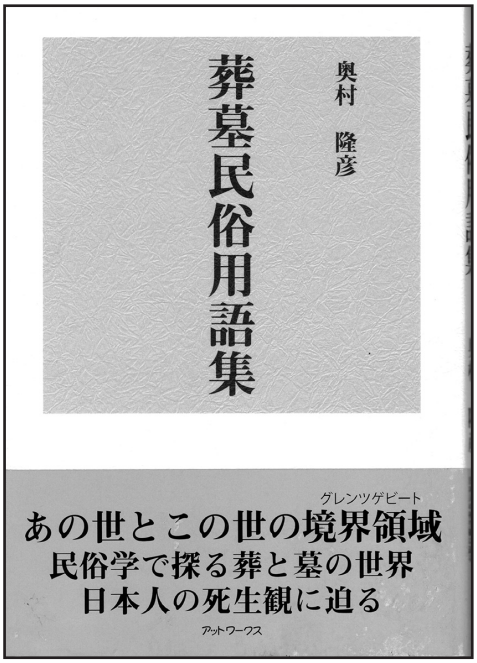
余談であるがそばにまつわる笑い話も多い。

「時そば」は、そばの代金 16 文を寺の鐘の音を聞きながら 1 文をごまかした話を聞いた与太郎がそれを真似て、逆に 1 文損をしたという落語である。

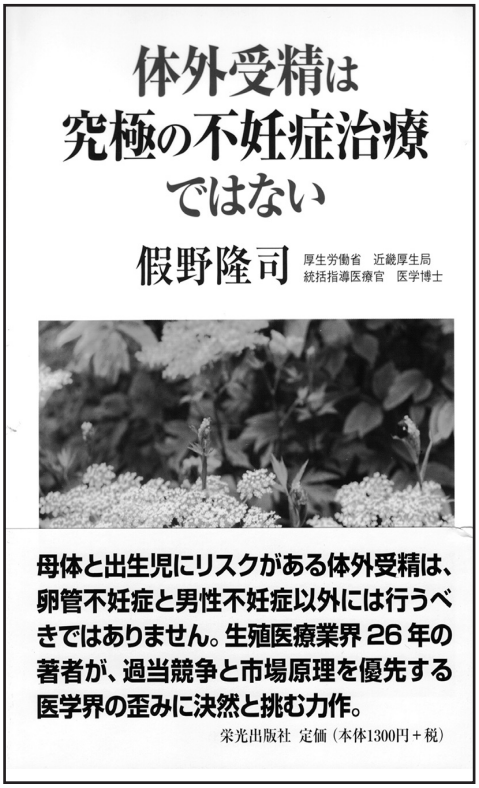
また、そば通をもって自認していたある江戸っ子が、かねがね「そばは先だけ汁につけるだけでズルズルと飲み込むのが通ってもんだ」と云っていたが、死ぬ間際に「一度でいいからどっぷりと汁にひたしたそばを食いたい」と云ったという笑い話がある。



会員著書



「葬墓民俗用語集」
奥村隆彦（高 18 期）／著
出版社／株式会社アットワークス
価格／ ¥1,600＋税



「体外受精は究極の不妊症治療ではない」
假野隆司（学 23 期）／著
出版社／栄光出版社
価格／ ¥1,300＋税

冊子・新聞切り抜き

「受章は活動を支えてくれた皆さんのおかげです」と話す浜脇弘暉さん（高知市上町３丁目）



旭日双光章

元県医師会常任理事
浜脇（はまわき）弘暉（ひろき）さん(77)

医療問題を訴え続け

母子保健活動が評価されて大臣表彰を受けた８年前、受賞の壇上でこう語った。「高知県でいかなる周産期医療システムを構築しても、マンパワーが絶対的に足りない」「地域レベルでの対応は限界だ。国には早急な対応をお願いする」

当時を振り返り、「国に表彰してもらって、けんか売ったみたいになってしまった」と苦笑。しかし、問題を訴え続ける姿勢が共感を呼び、現在の医療体制の構築などにつながった。

旧高知市民病院産婦人科などを経て33歳で、亡父の産科診療所を継いだ。県医師会では医事紛争を担当し、患者の気持ちに寄り添うよう心掛けてきた。「医療以外でも人脈、視野が広がった。やってなかったら、〝お山の大将〟で終わるところでした」

県産婦人科医会会長を務める。今後の目標を聞くと、「高幡地区への分娩施設の復活」。人々が安心して暮らせる地域に―。今も変わらぬ信念で、まだまだ走り続ける。

（門田朋三）

浜脇弘暉先生（学 11 期）が旭日双光章を受章されました。

編集部より

会費納入のお願い

年会費
平成 26 年度　10,000 円
平成 25 年度　10,000 円
平成 24 年度　10,000 円
納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局　会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュース原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。ご投稿お待ちしております。

●46 巻 2 号（平成 27 年 3 月 1 日発行）
　頁数　24 ページ（予定）
　締切　平成 27 年 1 月末日
●46 巻 3 号（平成 27 年 5 月 1 日発行）
　頁数　24 ページ
　締切　平成 27 年 3 月末日
●送付先：仁泉会事務局
　〒569-8686　高槻市大学町 2 番 7 号
　E-mail：jimu@jinsenkai.net
　FAX：072-682-6636

編集後記

明けましておめでとうございます。新年にあわせて、今号より仁泉会ニュースは、表紙や記事の体裁などをリニューアルいたしました。先生方のご感想はいかがでしょうか。

特別企画として、あらたに母校教育センター教授に就任された３名の先生方との座談会（前編）も掲載しております。第２弾も企画中です。学報とならんで、仁泉会ニュースでも皆様に母校の現況をお伝えしたいと考えおります。本年も仁泉会ニュースをよろしくお願いいたします。

（治）



“大阪医科大学関係者の皆様”へ

FELICE で

フェリーチェ

理想の結婚

フェリーチェは、メディカル人材企業との提携を通じて、
医療の第一線でご活躍の医師・歯科医師を中心にお迎えし、
理想の結婚をプロデュースすることを目的として
創設された会員制クラブです。
万全の個人情報管理と医療業界を熟知した専任コーディネーター
だからできる「洗練された出逢い」をあなたに。

＜成婚事例＞

男性			女性	
31歳 大阪医科大学	医師	♥	29歳 大阪外国語大学	会社員
39歳 関西医科大学	医師	♥	33歳 兵庫医科大学	医師
35歳 大阪市立大学	医師	♥	31歳 大阪医科大学	医師
34歳 慶應義塾大学	医師	♥	26歳 神戸女学院大学	英語教師
36歳 神戸大学	医師	♥	33歳 関西医科大学	医師
37歳 大阪医科大学	医師	♥	31歳 山口大学	医師
37歳 大阪大学	医師	♥	30歳 武庫川女子大学	薬剤師
33歳 大阪医科大学	医師	♥	27歳 神戸薬科大学	薬剤師

大阪医科大学関係者様
限定キャンペーン
詳しくはお問合せください。

フェリーチェは、個人情報保護を第一に、あえてオーソドックスなスタイルを守り、
医療業界を熟知した専任コーディネーターがご本人様のお人柄・ご要望をしっかりと把握し、
最適なお相手をご紹介いたします。

●入会資格
◇男性25歳～50歳　医師、歯科医師
◇女性20歳～37歳　医師または短大・専門学校卒以上
男女ともに結婚をお考えの独身者の方
※上記条件を原則として、そのほか本クラブの独自の入会審査基準がございます。

詳しくはフリーダイヤル、またはホームページにて、フェリーチェのすべてがわかる資料をご請求ください。

0120-683-156 www.felice.cc　フェリーチェ　検索
※「フェリーチェ」で検索してください。
受付時間／ 10：00～20：00　水曜定休日

フェリーチェはおかげさまで 創立12周年 を迎えました。そして、約4000社ある事業者の中で「会員内容の的確さ」「スタッフのサポート体制」など
11項目からなる「顧客満足度の高い会社」 2年連続 総合1位 （オリコン株式会社調べ）との評価をいただきました。
今後とも「真の顧客サービス」を目指し、皆さまのご結婚を全力でサポートさせていただきます。

無料 親御様向け説明会のご案内

●開催日時：1月22日(木)、23日(金)、27日(火)、29日(木)、30日(金)、
2月3日(火)、6日(金)、10日(火)、12日(木)、13日(金)、17日(火)、19日(木)、
20日(金)、24日(火)、26日(木)、27日(金)　各日14:00～
●会場：芦屋ラウンジ・銀座ラウンジ
●専用ダイヤル：芦屋 0797-25-1076／銀座 03-6228-5720（10:00～20:00、水曜定休日）

毎月1300件以上のお見合いをコーディネートしているプロフェッショナルがどんなご相談にもお応えします。

プライムマリッジ株式会社
www.prime-marriage.com

結婚相手紹介サービス業認証機構より適正な
サービス事業者として認証付与を受けています。

経済産業大臣認定
「認定個人情報保護団体」対象事業者

個人情報管理・プライバシー保護には
細心の注意を払っています。

銀座ラウンジ 東京都中央区銀座3-4-1 東海堂銀座ビル4F／芦屋ラウンジ 兵庫県芦屋市業平町3-13 芦屋ファレファーラ4F／梅田ラウンジ 大阪府大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第四ビル10F



プラチナゲート（メインエントランス）完成予想図

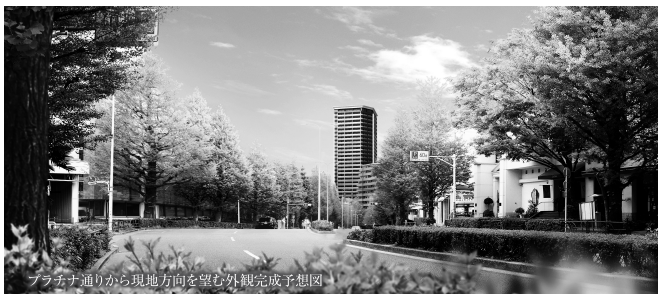
積水ハウスの分譲マンション

GRANDE MAISON
グランドメゾン

港区白金プラチナ通り初※1。護られた杜に澄む超高層レジデンス。

グランドメゾン白金の杜 ザ・タワー

資料請求受付中 ｜ モデルルーム案内会開催中［完全予約制］


プラチナ通りから現地方向を望む外観完成予想図

「長期優良住宅」に認定

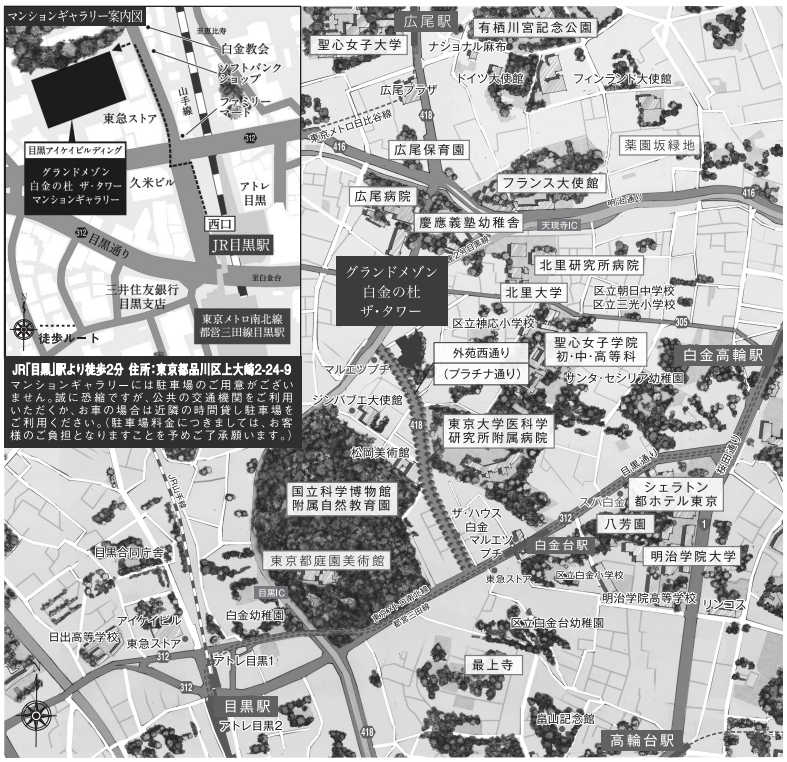
耐震性や耐久性、可変性、バリアフリー対策など国が掲げる9つの厳しい認定基準をすべてクリア。
※40-Aタイプ（専有面積55㎡以下）は除かれます。

ハイブリッド免震・制震構造

揺れを大幅に低減する免震構造に、地震のエネルギーを吸収する制震装置を付加した２重の構造システムを導入。

安心の５段階セキュリティ

外周にセキュリティラインを築き、メインエントランスには守衛室を。敷地から住戸までを５段階に守る防犯性。



3駅6路線利用可 ｜ 白金台［東京メトロ南北線／都営三田線］／ 広尾［東京メトロ日比谷線］／ 恵比寿［JR山手線／東京メトロ日比谷線／JR埼京線／JR湘南新宿ライン］

※1 プラチナ通りに接道する超高層（20階以上）の分譲マンションは現在及び過去30年（1983年～2013年3月15日 有限会社エム・アール・シーの補足・調査物件対象）において初となります。※掲載の完成予想図は、図面を基に描きおこしたもので、実際とは多少異なります。なお、外観形状の細部、設備機器等は表現していません。また、敷地周辺の標識、建物等につきましても一部省略しております。※植栽は竣工時想定のものではございません。

■「グランドメゾン白金の杜 ザ・タワー」全体概要●所在地／東京都港区白金6丁目353番3（地番）●交通／東京メトロ南北線・都営三田線「白金台」駅徒歩10分、東京メトロ日比谷線「広尾」駅徒歩13分、ＪＲ山手線・JR埼京線・JR湘南新宿ライン・東京メトロ日比谷線「恵比寿」駅徒歩15分●敷地面積／6,889.07㎡●建築面積／1,879.45㎡●建築延床面積／40,022.91㎡●建ぺい率・容積率／60％・400％●構造・階数／鉄筋コンクリート造 地上30階・地下1階・塔屋1階●用途地域／第1種住居地域・準工業地域●建築確認番号／BCJ13本建確026変1（平成25年10月2日付）●総戸数／334戸■「グランドメゾン白金の杜 ザ・タワー」第5期1次予告概要●販売戸数／未定●販売価格／8,880万円～13,540万円●最多販売価格帯／9,500万円台（4戸）●間取り／2LDK～3LDK●専有面積／72.42㎡～87.44㎡●バルコニー面積／14.54㎡～36.63㎡●駐車場／総戸数334戸に対して168台（月額使用料：37,000円～45,000円）、身障者用平面駐車場1台（月額使用料：45,000円）、来客用平面駐車場3台、管理用平面駐車場1台●自転車置場／総戸数334戸に対して346台（内レンタサイクル用12台）（月額使用料：300～500円）●バイク置場／総戸数334戸に対して12台（月額使用料：3,000円）●トランクルーム／総戸数334戸に対して78区画（月額使用料：8,000円）●管理費／22,600円～27,300円（月額）●管理準備金／22,600円～27,300円（引渡し時一括払い）●修繕積立金／7,200円～8,700円（月額）●修繕積立基金／576,000円～696,000円（引渡し時一括払い）●その他施設費用／SESシステム利用料・町内会費1,497円●分譲後の権利形態／敷地：専有面積割合による所有権共有 建物：専有部は区分所有権、共用部は専有面積割合による所有権共有●管理形態／週7日、24時間有人管理体制（管理員・夜間警備員交代含む）、区分所有者全員による管理組合を結成し、管理会社に委託●管理会社／積和管理株式会社●竣工予定時期／平成27年6月中旬予定●入居（引渡）予定時期／平成27年8月上旬予定※お知らせ／平成26年8月31日までにご契約のお客様の入居（引渡）予定時期 平成27年7月末日／平成26年9月1日以降ご契約のお客様の入居（引渡）予定時期を平成27年7月末日から平成27年8月上旬に変更いたしました。予めご了承ください。●売主／積水ハウス株式会社 国土交通大臣（14）第540号・（一社）不動産協会会員・（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-20-2 ホウライビル5階 東京マンション事業部●設計・監理／大成建設株式会社一級建築士事務所●施工／大成建設株式会社※表示されている専有面積等の情報は、第5期1次以降販売の全住戸の内容を基礎としています。第5期1次の販売戸数、価格、専有面積等は本広告におきましてお知らせします。※本広告を行い取引を開始するまでは、契約または予約申込に一切応じられません。また、申込みの順位の確保に関する措置は講じられません。（販売予定時期／平成27年1月中旬）

予告広告 本広告を行うまでは、契約又は予約に一切応じられません。また、申し込みの順位の確保に関する措置は講じられません。予めご了承ください。（販売予定時期/平成27年1月中旬）

〈売主〉
SEKISUI HOUSE 積水ハウス株式会社

お問い合わせは 0120-818-334 営業時間 10:00～18:00（火・水曜定休）

GMプラチナ 検索